



EF EPI

EF英語能力指数

EF SET

EF英語標準テスト
www.efset.org

2018

www.ef.com/epi

今年の新しい内容

1. 受験者数は130万人に拡大、昨年より30%の増加
2. 13か国が初参加: アフガニスタン、アルバニア、ベラルーシ、ボリビア、クロアチア、エチオピア、ジョージア、ホンジュラス、レバノン、ミャンマー、ニカラグア、セネガル、ウズベキスタン
3. 職場における英語能力を業種、職位、職務別にスコアと共に詳しく検証
4. 英語を話す社会がより解放的かつ平等主義的であることを示す新たな相関関係を紹介
5. 400を超える地域と都市の英語能力スコアを掲載

目次

04	エグゼクティブ・サマリー
06	EF EPI 2018 ランキング
08	EF EPI 2018 都市別スコア
10	EF EPI 詳細データ
12	英語と経済、貿易
14	英語とイノベーション
16	職場における英語
18	英語と社会
20	英語とテクノロジー
22	ヨーロッパ
26	アジア
30	中南米
34	アフリカ
38	中東
42	結論
44	付録A: この指数について
46	付録 B: EF EPI 能力レベル
47	付録C: CEFT レベルとCan-Do自己評価
48	付録D: EF EPI 各国スコア
50	付録E: 参考資料

エクゼクティブ・サマリー

2018年、英語の重要性は依然として高いままです。英語は事実上の公用語として、商品、サービス、アイデアの交換など、あらゆる国際交流の場におけるコミュニケーションに使用されています。

企業にとって、英語は国際化した市場で競争力を維持し、イノベーションを促進するための重要な要素です。グローバル化した世界で交流における英語の必要性が増々高まるにつれ、英用能力の価値がより顕著になり、英語を知らないことの代償は深刻さを増しています。

普及が進むにつれ、これまで以上に英語と特定の文化との結びつきが希薄になっています。世界の英語を話す人々の内「ネイティブスピーカー」は4分の1未満であり、第2言語として英語を学ぶ人口が増えるにつれ、その割合は低下し続けます。既に、世界の人口の半数以上が2言語以上を話すことができると専門家は推測しています。

このレポートは、世界のどの地域で英語能力がどのように伸びているかをより広く理解することを目的としています。EF英語能力指数の第8版を作成するため、2017年に弊社の英語テストを受験した130万人の結果を分析しました。

注目すべき分析結果は次の通りです：

全体としての英語能力は向上

8か国が大幅な向上(2ポイント超)を見せしており、これまでで最多の12か国が最高の能力レベルに達しました。世界的なトレンドから、今後も向上が続くことが示唆されます。公共および民間の英語指導への投資は勢いを失っていません。職場における英語の存在感もこれまで通り強いものとなっています。2017年には、海外旅行が7%増加しました。

英語を話す社会はより開放的で階級制が少なく、女性に対してより平等である

英語がこのような社会的な向上を引き起こしていると断言することはできませんが、相関関係はあるようです。英語は障壁を取り除き、国際間の交流を促進させ、個人がより広い世界と接することを可能にするので、相関性があるのは当然とも言えます。

英語とイノベーションの密接な関係

どの他言語よりも多くの科学雑誌が英語で発行されており、英語と研究開発(R&D)の間には常に相関関係が見られます。最近の研究結果によると、出身国が異なる管理職のいる企業は多様性の少ない競合他社よりもイノベーションによる収入が高いことが証明されており、この関係は特に興味深いものです。英語はアイデアの広め方を変化させます。

男性よりも女性の英会話力が高い

男女間の差は過去のEF EPI全8版を通じて見られる傾向で、2016年に一度狭まった男女間の差は再び広がりを見せています。男女の外国語学習の差を研究した結果によると、女子生徒はより意欲が高く、より幅広い戦略を用いて新しい情報を習得し、間違えを恐れない傾向があります。女性全体としても、男性よりも高等学校を修了して大学に入学する割合が高くなっています。

残念ながら、企業は女性の英語スキルを活かしきれていません。調査によると、女性はミーティングや交渉の場で発言する機会が男性よりも少なく、発言しても途中で邪魔をされる場合が多いことが分かっています。

平均的に、20代成人の英会話能力が最も高い

今回初めて、26~30歳の年齢層の世界平均が21~25歳の平均を上回りましたが、異なる年齢グループごとの能力は、地域による大きな違いが見られました。英語を学ぶことによるインセンティブが高い経済圏では、社会人層が英語学習に時間とお金を投資しており、学生よりも英語能力が高くなっています。最近になって学校制度に英語が導入され、優先的に指導されるようになったことから、最若年層がどの年代よりも大きな伸びを見せています。一方英語能力に年代差の見られない地域では、何十年もの間、英語教育の制度に大きな変化がなく、どの世代の英語能力も固定化しています。

管理職クラスは経営陣や一般社員よりも英会話を習得している

こうした傾向は大多数の業種と国に当てはまります。管理職の社員は若手社員よりも海外の同僚や顧客と交流する機会が多いため、英会話を実践する機会が多くなります。また、英語スキルによって好待遇を受けることができ、スキルがある人材は管理職へ昇進される機会が増えます。その一方で、経営陣は年齢が高く、現代ほど英語スキルが重宝されていなかった企業環境の中で昇進してきた傾向があります。すべての勤続年数レベルにおいて満遍なく英語能力を構築することで、企業はより国際的なチーム作りができるようになり、組織内でより迅速に情報を共有できるようになります。

業界と職種によって大きく異なる英語能力
ほとんどの求人では英語スキルが要求される昨今ですが、英会話に最も長けている人材が法律や戦略などの一部の部署、および銀行やITのような一部の業種に集まっているのは明らかです。世界規模では業種間の差が縮まりつつありますが、国家規模では業種間における英語能力の最高と最低の間には15ポイント、または3レベルを超える差がある場合があります。グローバリゼーションのプレッシャーとは、ほとんどの業種が国際競争の対象となることを意味しています。英語スキルが低い企業は競争がより困難になります。

英語能力が最も向上したのはアフリカ

南アフリカの英語能力は世界のどの国よりも大幅な向上を見せ、アルジェリア、エジプト、ナイジェリアも大きく上昇しました。これは、若者の人口が多く、計り知れない成長の可能性を秘めたアフリカ大陸にとって明るい将来を期待させる良いニュースです。英語スキルが国際社会へのさらなる進出を可能にするでしょう。

英語スキルが最も高い地域はヨーロッパだが、ヨーロッパ内でも能力にばらつきがある
ヨーロッパ大陸の3大経済国(スペイン、イタリア、フランス)は英語スキルが伸び悩んでいる一方、今回の指数ではトップ10位のうち6か国を北欧の国々が占めています。スウェーデンは2年振りに第1位に返り咲き、オランダが2位に落ちました。ヨーロッパ縁辺の国々は英語能力がヨーロッパの平均よりもかなり低くなっています。

アジアは英語に対する多額の投資の甲斐なく英語能力は向上せず

この地域では、これまでのEF EPIでも英語能力が最高の国と最低の国との間に大きな差が見られましたが、2018年の分析ではその差がさらに開いています。シンガポールは既に高い能力レベルからさらに向上し、世界全体のランキングで第3位になりました。中国と日本では大きな変化は見られず、依然として低い能力レベルのままです。今年は、ウズベキスタンが指数に加わり、カザフスタンと共に非常に低い能力レベルにランキングしたことで、中央アジアにおける英語スキル不足がより顕著に表れる結果となりました。

英語能力がわずかに低下した地域は世界中で中南米だけ

この地域は世界の他のどの地域よりも英語スキルの格差が少なく、一番スコアの低いベネズエラと一番高いアルゼンチンとの差はわずか11ポイントしかありません。低い標準の教育制度と高レベルの経済的不平等によって、英語能力の向上が妨げられています。

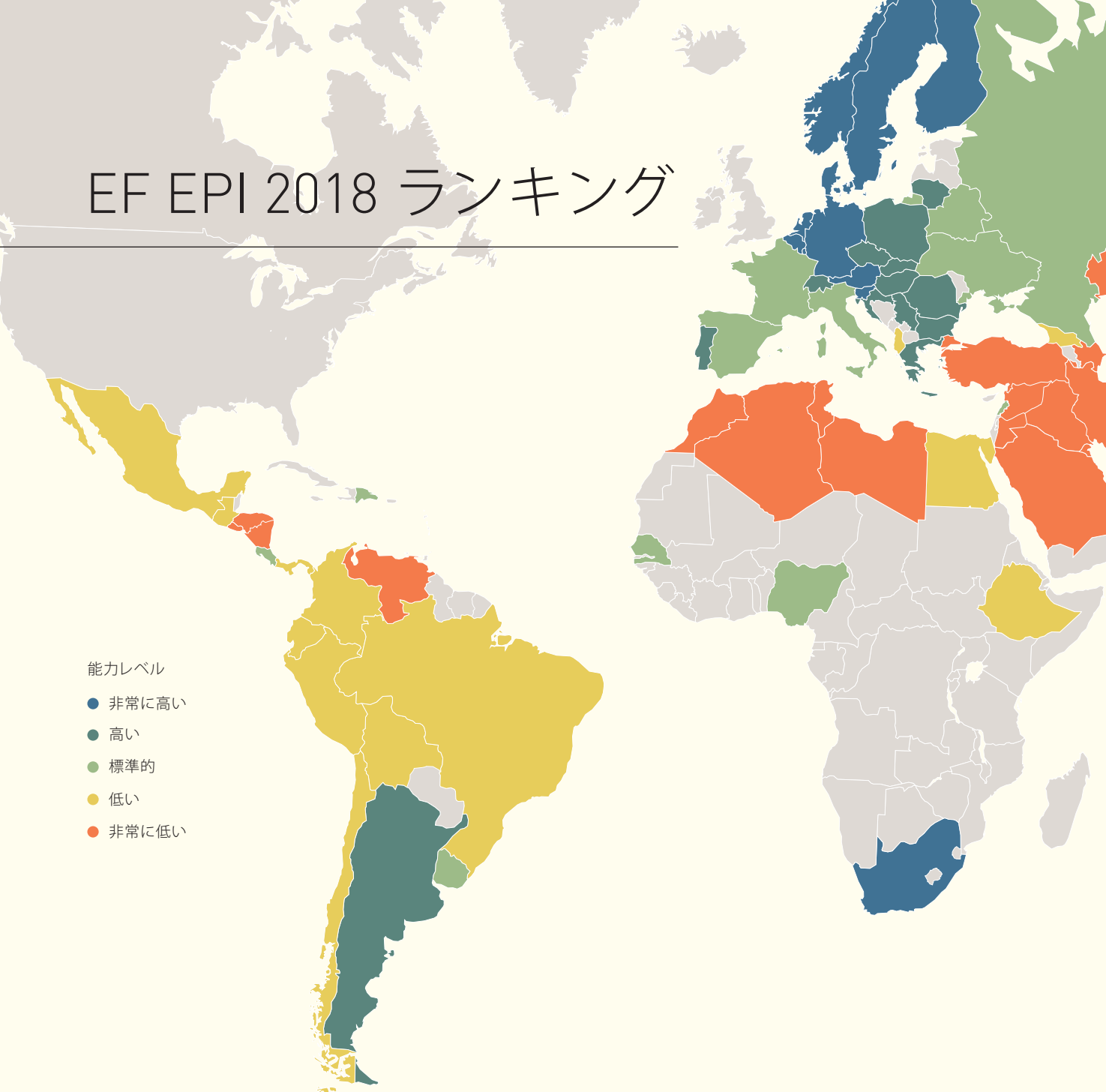
中東は世界で最も英語能力が低く、最も不安定な地域

昨年以來、この地域のほとんどの国で1ポイントを超える上昇または下降が見られました。今年は指数に標準的な能力レベルのレバノンが追加されたことで、地域平均はわずかに上昇しました。クウェートとイラクは大幅に向上しましたが、非常に低い能力レベルから抜け出るには足りませんでした。

EF EPI 2018 ランキング

能力レベル

- 非常に高い
- 高い
- 標準的
- 低い
- 非常に低い



非常に高い英語能力

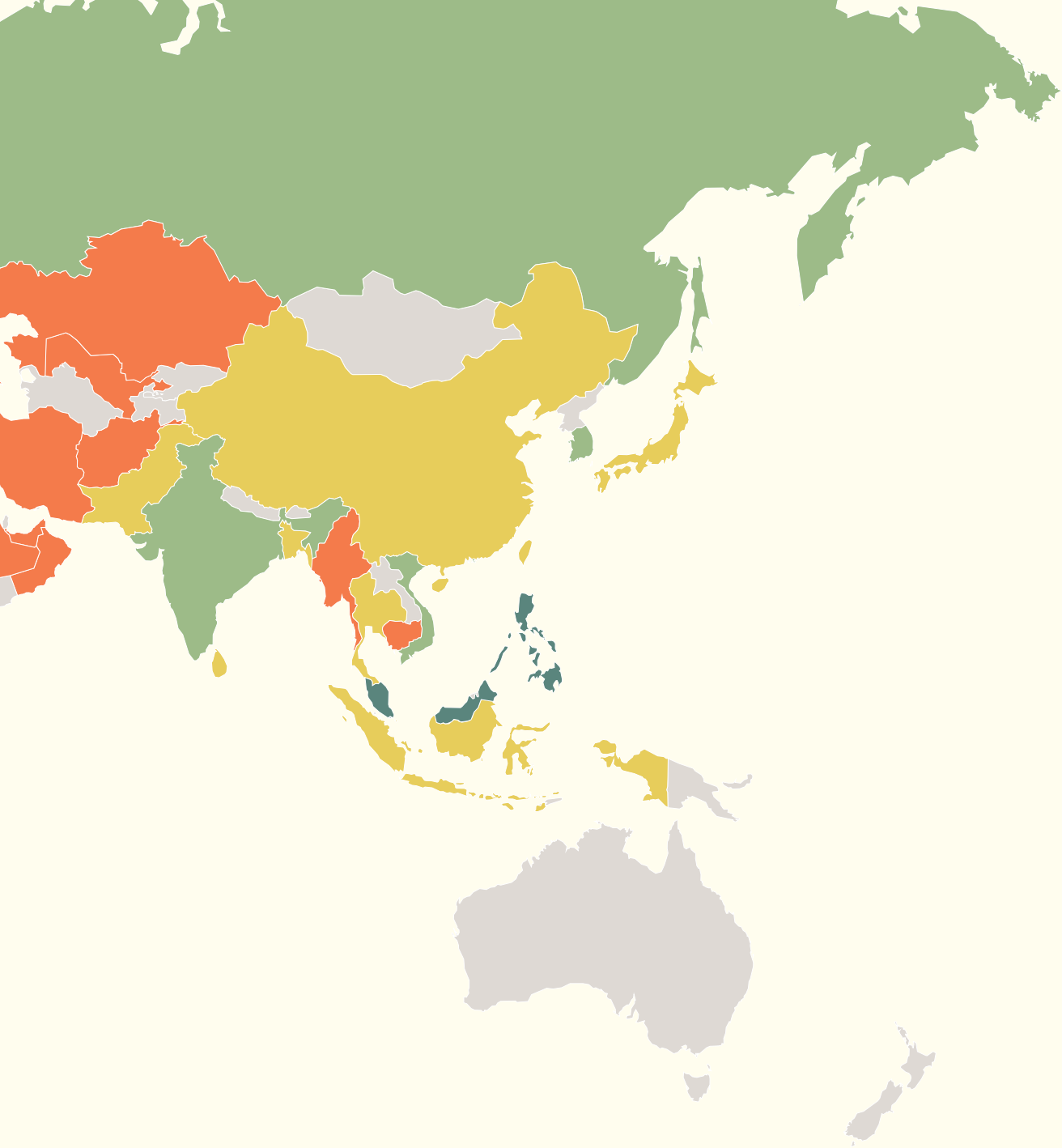
01	スウェーデン	70.72
02	オランダ	70.31
03	シンガポール	68.63
04	ノルウェー	68.38
05	デンマーク	67.34
06	南アフリカ	66.52
07	ルクセンブルグ	66.33
08	フィンランド	65.86
09	スロベニア	64.84
10	ドイツ	63.74
11	ベルギー	63.52
12	オーストリア	63.13

高い英語能力

13	ポーランド	62.45
14	フィリピン	61.84
15	スイス	61.77
16	ルーマニア	60.31
17	クロアチア	60.16
18	セルビア	60.04
19	ポルトガル	60.02
20	チェコ共和国	59.99
21	ハンガリー	59.51
22	マレーシア	59.32
23	ギリシャ	58.49
24	スロバキア	58.11
25	ブルガリア	57.95
26	リトアニア	57.81
27	アルゼンチン	57.58

標準的な英語能力

28	インド	57.13
29	ナイジェリア	56.72
30	香港特别行政区	56.38
31	韓国	56.27
32	スペイン	55.85
33	レバノン	55.79
34	イタリア	55.77
35	フランス	55.49
36	コスタリカ	55.01
37	ドミニカ共和国	54.97
38	ベラルーシ	53.53
39	セネガル	53.50
40	ウルグアイ	53.41
41	ベトナム	53.12
42	ロシア	52.96
43	ウクライナ	52.86
44	マカオ特别行政区	52.57



低い英語能力

45 ジョージア	52.28
46 チリ	52.01
47 中国	51.94
48 台湾	51.88
49 日本	51.80
50 パキスタン	51.66
51 インドネシア	51.58
52 アルバニア	51.49
53 ブラジル	50.93
54 エチオピア	50.79
55 グアテマラ	50.63

非常に低い英語能力

56 パナマ	49.98
57 メキシコ	49.76
58 スリランカ	49.39
59 ペルー	49.32
60 コロンビア	48.90
61 ボリビア	48.87
62 エジプト	48.76
63 バングラデシュ	48.72
64 タイ	48.54
65 エクアドル	48.52
66 イラン	48.29
67 モロッコ	48.10
68 チュニジア	47.85
69 ホンジュラス	47.80
70 エルサルバドル	47.42
71 アラブ首長国連邦	47.27
72 ニカラグア	47.26
73 トルコ	47.17
74 ヨルダン	47.10
75 ベネズエラ	46.61
76 シリア	46.37
77 アゼルバイジャン	45.85
78 クウェート	45.64
79 オマーン	45.56
80 カザフスタン	45.19
81 アルジェリア	44.50
82 ミャンマー	44.23
83 サウジアラビア	43.65
84 アフガニスタン	43.64
85 カンボジア	42.86
86 ウズベキスタン	42.53
87 イラク	40.82
88 リビア	39.64

EF EPI 2018 都市別スコア

能力レベル

- 非常に高い
- 高い
- 標準的
- 低い
- 非常に低い

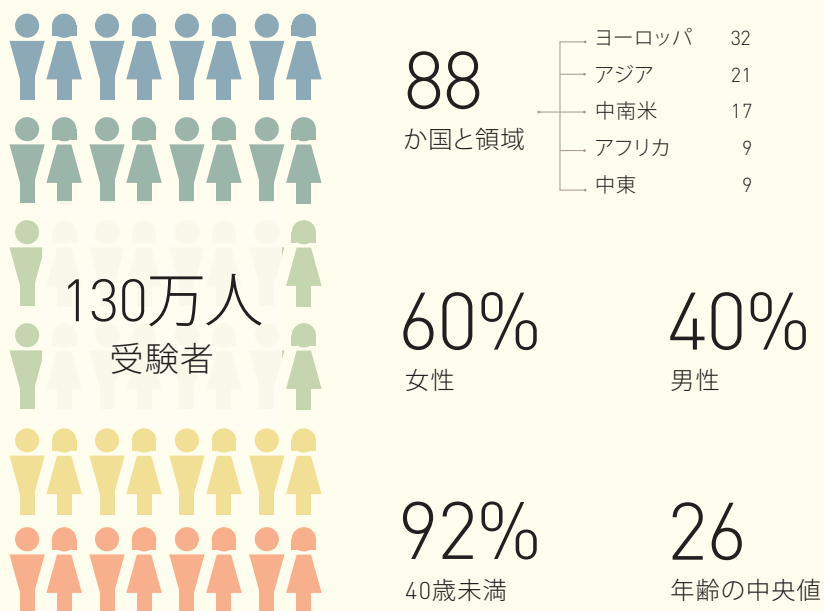
アムステルダム	72.41	ソウル	58.72	チュニス	53.17
ストックホルム	71.85	ブエノスアイレス	58.43	リオデジャネイロ	53.16
ニューデリー	69.96	マドリード	58.42	メキシコシティ	53.11
ヨハネスブルグ	69.42	上海	57.91	ブカレスト	52.54
オスロ	69.17	パリ	57.49	モンテレイ	52.37
ヘルシンキ	68.45	ミンスク	57.06	カイロ	52.30
ムンバイ	68.28	キエフ	57.01	キト	51.91
マニラ	65.21	テヘラン	55.97	アンカラ	51.73
ウィーン	65.14	ハノイ	55.82	広州	51.38
プラハ	65.10	モスクワ	55.59	ボゴタ	51.25
ブダペスト	64.94	ローマ	55.33	リマ	51.05
クアラルンプール	64.72	東京	55.13	バンコク	50.93
ブリュッセル	64.53	カラチ	55.08	カザン	50.62
ワルシャワ	64.42	ドバイ	55.06	カサブランカ	50.52
チューリッヒ	64.42	北京	54.80	アスタナ	49.78
ベルリン	64.24	ブラジリア	54.64	カラカス	48.47
リスボン	61.86	ジャカルタ	54.26	アルジェ	48.31
ソフィア	60.79	サンパウロ	54.02	バグダッド	47.43
ラゴス	60.29	サンティアゴ	53.57	リヤド	43.87
アテネ	60.19	セントピーターズバーグ	53.34		



400を超える都市と地域の英語能力スコア、および国別の性別、年齢、業種のデータは www.ef.com/epi からダウンロードできます。

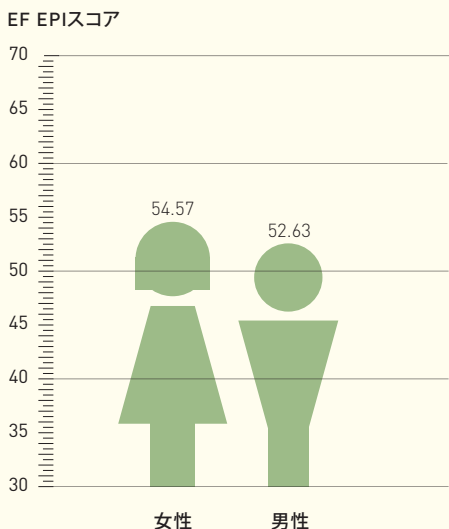
EF EPI 詳細データ

試験受験者の内訳

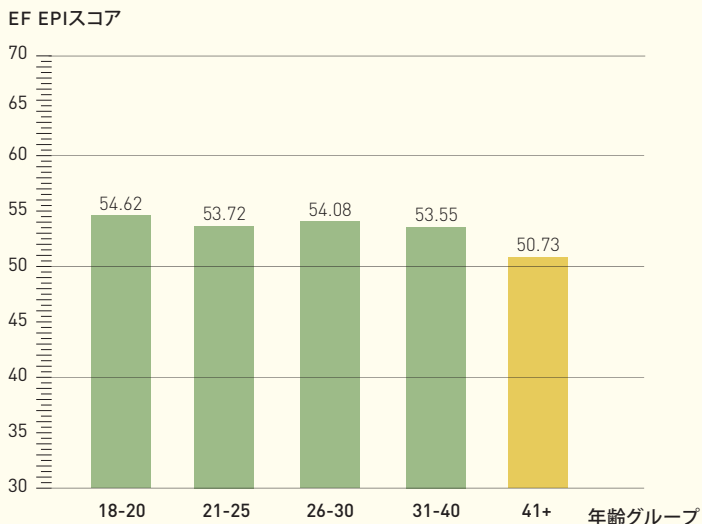


性別および年齢が英語能力に及ぼす影響

世界男女の差



世界世代間の差



能力レベル


● 非常に高い ● 高い ● 標準的 ● 低い ● 非常に低い

今年の EF EPI の注目ポイント

EF EPI と人口の大きさ

国家の人口の大きさと英語能力の間には相関性がほとんどなく、能力の高い国々には大小様々な国が含まれています。しかしながら、人口の非常に少ない国々は平均を超える英語能力がある傾向があります。小国ではより大きな隣国よりも国際社会との経済的な統合が推し進められています。

30か国 人口1千万未満		32か国 人口1~5千万		23か国 人口5千万以上	
平均	56.20	平均	51.13	平均	53.59
最高スコア		最高スコア		最高スコア	
スウェーデン	70.72  9.9百万	オランダ	70.31  17.1百万	南アフリカ	66.52  54.8百万
シンガポール	68.63  5.9百万	ベルギー	63.52  11.5百万	ドイツ	63.74  80.6百万
ノルウェー	68.38  5.3百万	ポーランド	62.45  38.5百万	フィリピン	61.84  104.3百万

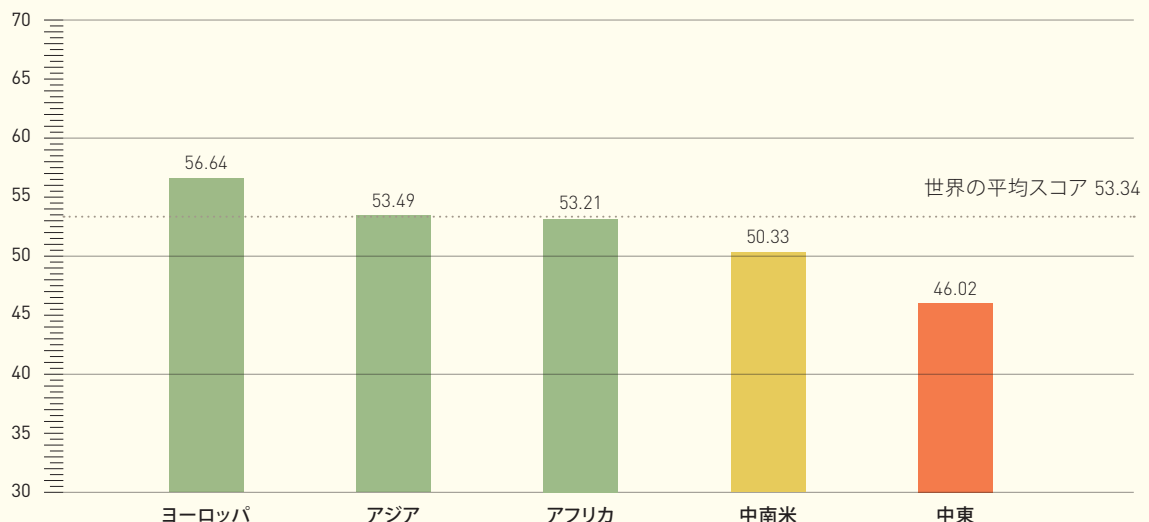
 人口の大きさ(百万)

EF EPI 2018地域別トレンド

	ヨーロッパ	アジア	アフリカ	中南米	中東
最高スコア	スウェーデン	シンガポール	南アフリカ	アルゼンチン	レバノン
最低スコア	アゼルバイジャン	ウズベキスタン	リビア	ベネズエラ	イラク
最大上昇	+2.12 チェコ共和国	+2.60 シンガポール	+3.15 南アフリカ	+1.88 コスタリカ	+2.70 イラク
最大下降	-2.59 デンマーク	-2.24 バングラデシュ	-1.16 チュニジア	-1.81 メキシコ	-2.12 シリア

EF EPI地域別平均

EF EPIスコア



能力レベル ● 非常に高い ● 高い ● 標準的 ● 低い ● 非常に低い

英語と経済、貿易

ほとんどの経済で貿易による推進力が増しており、2015年においては、貿易は世界のGDPの割合は56%を占め、1995年から44%も向上しています。これらの国際的な取引に必要とされる共通言語は英語です。当然、物流パフォーマンス [グラフ A]、輸出書類、輸入所要時間を含む、輸出入関連指標と英語能力の間には強い相関性があります。

ビジネスにより適した環境

EF EPIの全8版において、ビジネスのしやすさと英語能力には強い相関関係[グラフ B]が報告されています。初期のスタートアップや職人は地元でビジネスを行うため英語を必要としないかもしれませんが、世界規模のサプライチェーンの一部として、完成品の購入者として、または海外で類似した事業を行う企業の競合として、国際的に運営されているビジネスの割合は増え続けています。ハーバード・ビジネス・スクールのTsedal Neeley教授によると、多国

籍企業全体の60%近くが既に英語で運営されています。英語での運営に乗り気ではない企業は既にグローバル化された企業に追いつくことが困難になるでしょう。

企業の共通言語

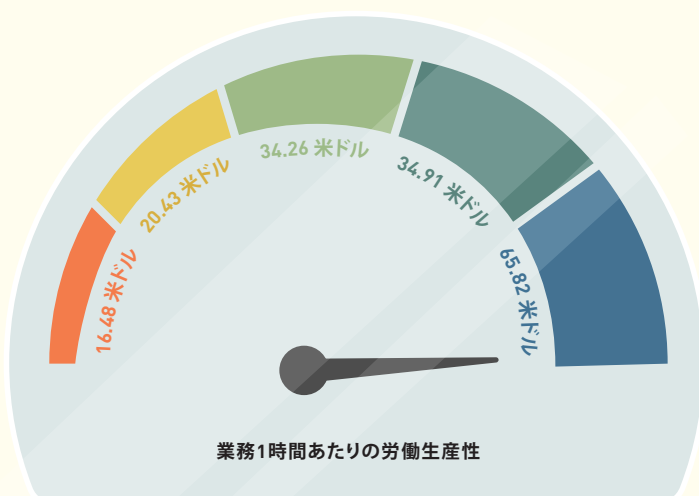
高い英語スキルを持つ人材の育成には時間がかかりますが、その重要性を認識している多国籍企業は増え続けています。日本の巨大なeコマース企業である楽天は、2010年に全世界企業言語として英語の使用を開始しました。最近では、東京オフィスで新規雇用されたエンジニアの80%が非日本人で、日本国外市場への事業拡大によってユーザー数が2億人から11億人に増えました。Honda、日産、ルノー、シーメンス、ネスレ、ソデクソなど、英語を母国語としない国に本社がある多くの多国籍企業も、競争力を維持するために企業の共通言語として英語を採用しています。国際的に人材を雇用するためには共通言語が求められます。

英語と経済成長

世界の経済において、高い英語能力には大きなメリットがあります。英語能力は、より高い国内総生産と平均総所得(グラフ C)を含む数多くの主要な経済指標と関連しています。発展途上国において、農業や製造業から知識ベース経済へ移行するには、技術的なインフラだけではなく、海外にサービスを販売する能力のある人材が必要になります。これに応じて、英語能力とサービス輸出の間には強い相関関係が見られ[グラフ D]、英語能力と生産性にも相関性が認められます。多くの場所で小売業は唯一最大の民間雇用主ですが、世界規模ではeコマースが毎年平均20%の割合で増加を続けていることから、典型的なローカル産業である小売業もローカルに存続し続けることができる保証はありません。企業の向かうべき未来は国際市場であり、英会話は国際市場に進出するための基本スキルの一つなのです。

よりスマートに働く

英語能力は、1時間の労働時間での作業量を計測した生産性と比例しています。

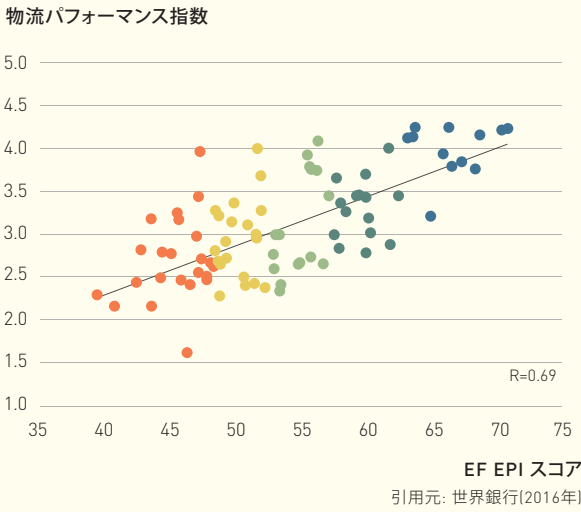


能力レベル

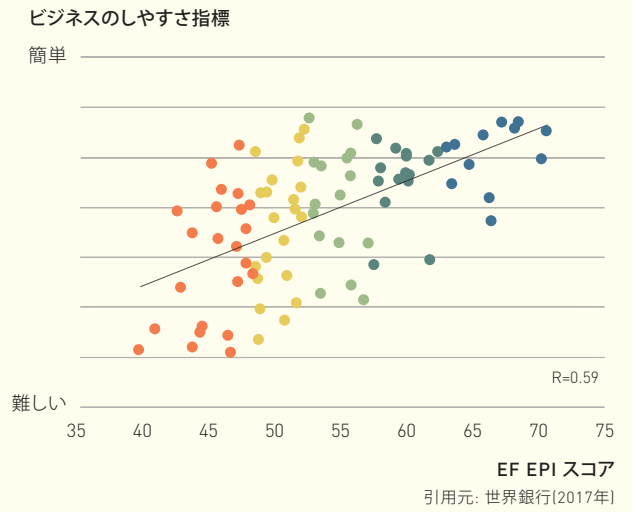
- 非常に高い
- 高い
- 標準的
- 低い
- 非常に低い

引用元: ケイトー研究所 ヒューマンプロジェクト (2017年)

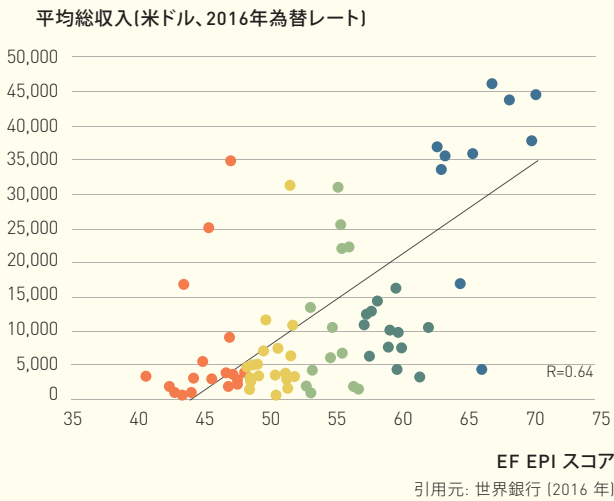
グラフ A
英語と物流



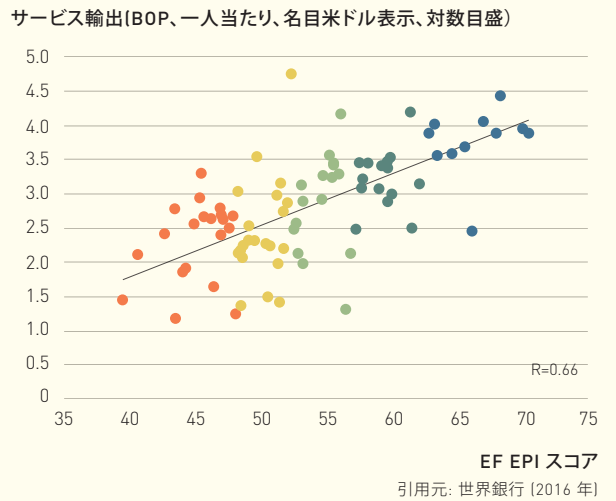
グラフ B
英語とビジネス



グラフ C
英語と収入



グラフ D
英語とサービス輸出



能力レベル

- 非常に高い
- 高い
- 標準的
- 低い
- 非常に低い

英語とイノベーション

素晴らしいアイデアとは、アラビア語でも、スワヒリ語でも、英語でも、どの言語であってもその素晴らしさに変わりはありません。しかし、残念ながらアイデアを英語以外の言語で表現する場合、伝えられる相手が限られてしまいます。現在、学術雑誌からTEDのスピーチにいたるまで、最も影響力のあるアイデア共有基盤のほとんどが英語で運用されています。科学者とエンジニアは言語の障壁のせいで世界の技術革新を見過ごすわけにはいかないのももちろんですが、英語の必要性は学術や技術の分野だけにとどまらず、あらゆる分野で世界の良い実績にアクセスできる利点があります。会計士から最高経営責任者まで、英会話の能力がある人は世界の知識をより多く活用することができます。

アイデア共有

幾年にも渡り、資本と人材の両面において、国家の英語能力と研究開発(R&D)の間には強い相関関係が見られてきました[グラフEとF]。研究者は研究結果を共有し、海外の研究者の研究内容にアクセスするために英語が必要です。世界で最も影響力のある科学雑誌100誌(SCIImago

Journal Rankによる選出)すべてが英語で記事を掲載しており、英語能力と国民100万人当たりの科学および技術誌数には強い相関関係が見られます(グラフG)。さらに、英語で論文を発表する科学者は、他の言語で論文を発表する科学者と比べて、論文が国際的に引用される可能性が高くなります。アイデアの共有は技術の躍進を生むため、グローバルな科学コミュニティの一層の統合は、イノベーションの加速につながります。

国際協力と人材

デジタル技術や長距離移動の容易化によって、すべての分野で国際協力が当たり前になりつつありますが、企業環境の多様性が経済に与える影響についてはまだ理解が始まったばかりです。マネジメントコンサルティング会社BCGによる過去2年間の調査では、管理職の多様性が平均未満である企業は新商品や新サービスからの収入が競合他社よりも19%少ないことが分かっています。イノベーションという点では、性別の多様性、年齢の多様性、学歴の多様性、昇進経路の多様性などあらゆる種類の多様性がプラスの要因となります

が、中でも出身国の多様性が最も強力な推進力となることが分かっています。国際的なチームは英語で業務を行うため、イノベーションの潜在能力を構築したい企業は高いレベルの英語能力が必要となります。

また本版では、「その国のポリシーや慣習がいかに能力の優れた人材の呼び込み、育成、維持できるか」を評価したレポートである、グローバル人材競争力指数と英語能力の間にも高い関連性(グラフH)が見られました。英語能力によって地方にいたる人材がグローバルな会話に参加することができるだけでなく、海外から人材を呼び込むことができるという点も重要です。2017年のHSBC調査で国際的に移動する専門家を惹きつける魅力度で上位5位にランク入りしているシンガポール、ノルウェー、ドイツ、オランダ(第5位はニュージーランド)はいずれも非常に高い英語能力を持つ国です。外国人の呼び込みがすべての地域にとって優先事項であるわけではありませんが、自国の人材の育成はどの地域にとっても最優先事項であるべきです。

素晴らしいアイデア

英語能力は、研究開発支出や国民一人当たりの研究者および技術者数を含む数々の主要なイノベーション評価と正の相関関係を持ちます。



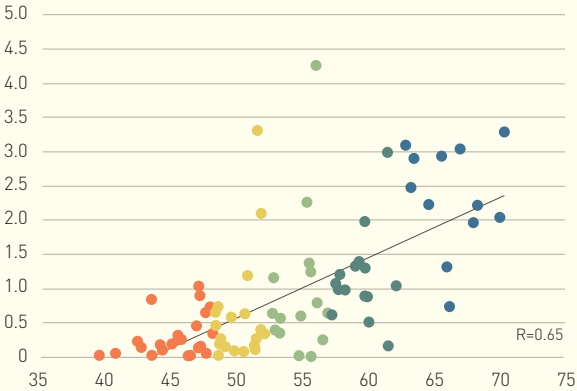
能力レベル

- 非常に高い
- 高い
- 標準的
- 低い
- 非常に低い

引用元: 世界銀行(2015年)

グラフ E
英語と研究開発支出

研究開発資金(GDPに占める割合)

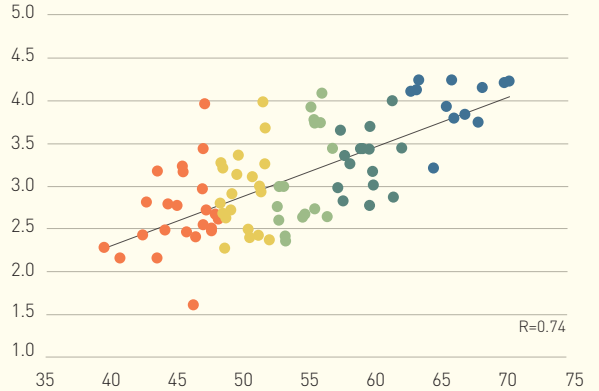


EF EPI スコア

引用元: 世界銀行(2015年)

グラフ F
英語と研究者

研究開発の研究者数(100万人あたり)

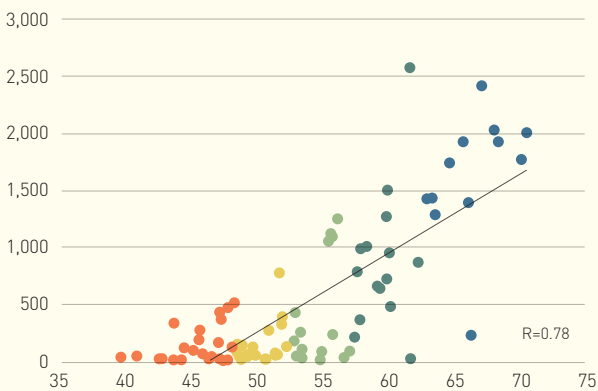


EF EPI スコア

引用元: 世界銀行(2015年)

グラフ G
英語と学問

科学および技術誌の論文数(100万人当たり)

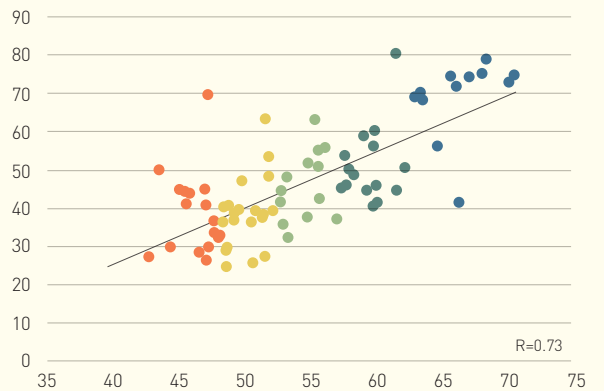


EF EPI スコア

引用元: 世界銀行(2016年)

グラフ H
英語と人材の質

グローバル人材競争力指数



EF EPI スコア

引用元: INSEAD(2018年)

能力レベル

- 非常に高い
- 高い
- 標準的
- 低い
- 非常に低い

職場における英語

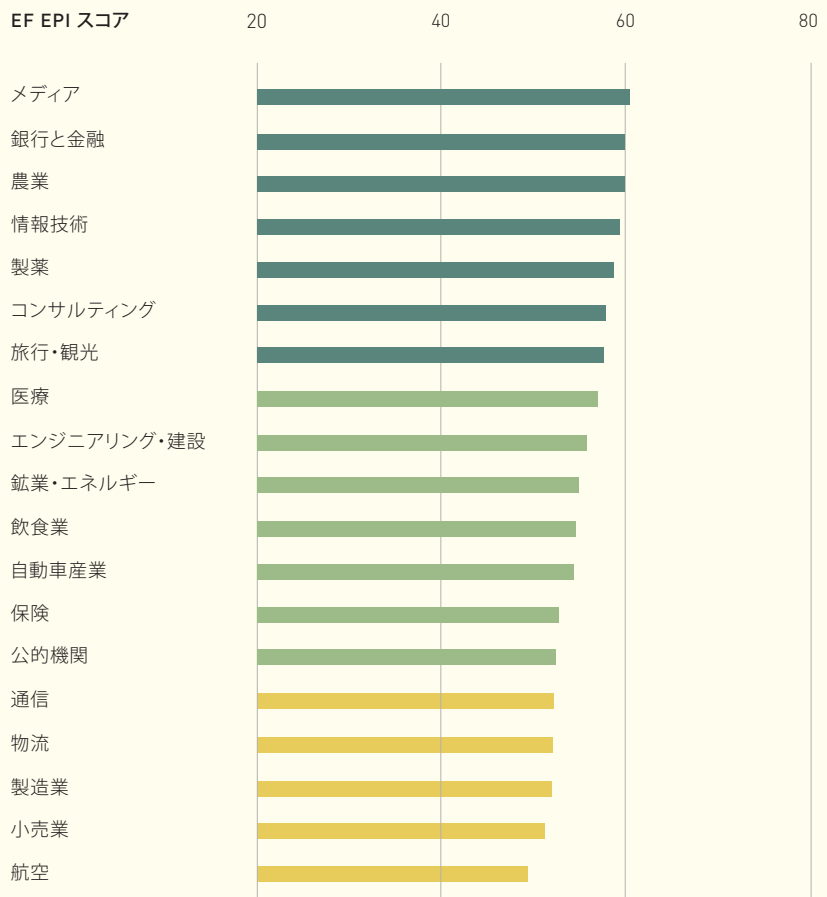
英語は至る所に

これまでに無いほど、多くの企業で英語スキルが求められる業務が増えています。かつて、英語は特定の職務や勤続年数レベルに対する要件に過ぎませんでしたが、最近では、サプライチェーン、技術サポート、接客、情報管理、マネージメント層など、あらゆる国境を超えた職務で英語が求められています。全世界における多国籍企業の本数は2006～2016年の間で25%増加しました。2016年の調査では、英語を母国語としない28か国の70%を超える企業がビジネスで英語が重要だと考えており、11%が英語をメインの言語として使用していると答えています。

縮まりつつある格差

本データは、このトレンドの別の側面も示唆しています。業種間における英語能力の差は未だに存在していますが、その差は主に国家レベルでの差でしかありません。世界規模で見ると、英語能力が一番高い業種と低い業種の差は大きく狭まっています。2016年には19ポイントの差がありましたが、現在は辛うじて10ポイントあるかないかです。この世界的な能力格差の縮小は、英語能力の低い業種が向上したことによるものです。英語トレーニングに投資する企業が増え、自身の英語スキル向上のために私的に投資を行う成人も増え、専門家たちが仕事で英語を使用する機会が増えています。

業種別 EF EPI



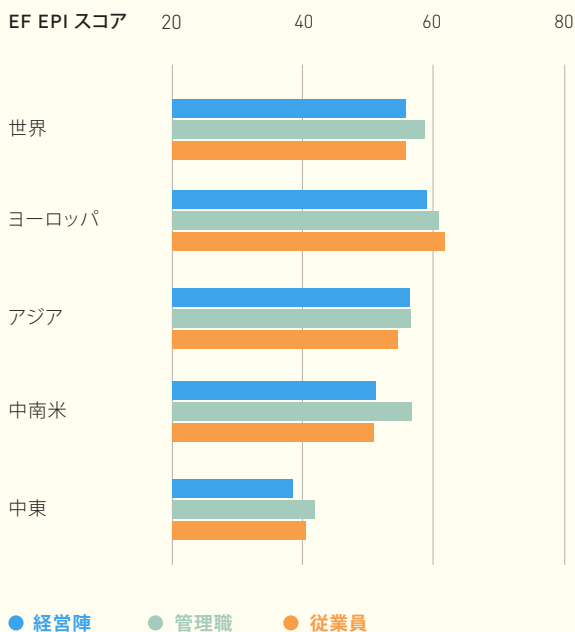
管理職がリード

世界的に見て、管理職は経営陣や一般社員よりも英会話能力が高くなっており、特に年齢の中央値が若年側に偏っている場合にこの傾向が顕著です。職位間の差は中南米が最も大きく、近年の学校での英語教育向上のための投資の甲斐なく、成人の英語能力の平均レベルは昨年を下回りました。人口の高齢化がより進んでいるアジアとヨーロッパでは、勤続年数レベル間における英語能力の差は狭まっています。アジアは経営陣の英語能力が最も高くなっている唯一の地域で、英語の習得において管理職グループに引けを取っていません。ヨーロッパでは、若手の専門家たちの英会話能力が最も高くなっています。

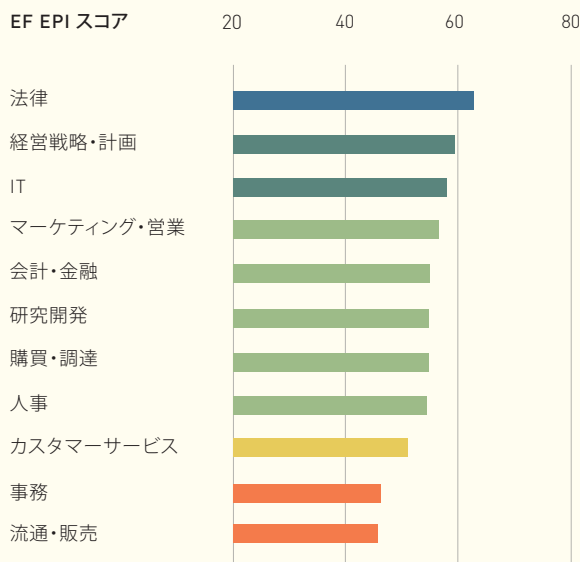
職務による違い

すべての職場条件の中で、英語レベルを確実に決定付けているのは職務です。職務別の英語レベルは非常に高いから非常に低いまで、全5レベルに跨っています。これは、現在および過去の雇用慣習の結果だと言えるでしょう。統合された一つの人材グループを育成、配置する代わりに、英会話能力があつて国際的に移動することができるエリート、そして英会話ができず、勤務地も自国に限られるサポートスタッフという二種類の従業員クラスを同時に構築していることは企業にとって危険な状態です。

職位別 EF EPI



職務別 EF EPI



能力レベル

● 非常に高い ● 高い ● 標準的 ● 低い ● 非常に低い

英語と社会

成人の英語能力は社会の解放性を代弁する指標であると言っても過言ではありません。英会話を学習してきた地域では、全体的に国際間の移動が活発になり、男女の役割に対する考え方が進歩的です。英語能力が低い国々では、人々がより保守的で偏狭になる傾向があり、権力や収入格差を受け入れやすい傾向があります。明確な因果関係があるわけではなく、英語をグローバル化のツールとして人々に受け入れさせる力は、社会の開放性を向上させ、格差を削減する力でもあることを示唆しています。

権力格差との関係

成人の英語能力は、組織で権力を持たないメンバーがどの程度の権力格差を受けているかを測定するホフステッドの権力格差指数(PDI)とも密接な相関関係があります[グラフI]。この指数は職場環境および家族構成の両方における権力格差を認知することができます。PDIのスコアが高いほど、若年者が年配者の命令に従うことが求められる厳格な典型的階層的制度社会となります。このような社会では、大きな格差が許容されており、英語能力も低くな

っています。その対極として、権力格差の少ない企業が成功し、格差に対する寛容度が低く、人物の年齢や勤続年数に関係なくアイデアに価値が認められる国々もあります。そのような国では、英語能力がより高くなる傾向があります。

英語が階層性を直接脆弱化させるわけではありませんが、社会の視野を広げる効力はあるかもしれません。世界の10億人の英語を母国語としない人々の多くにとっての目標は、国境を超えてコミュニケーションをとることです。海外とのコミュニケーションは、世界の他の国々がどのように運営されているかを観察できる自由をもたらします。本年度のEF EPIで明らかになった最も強固な相関関係の一つに、エコノミストの民主主義指数があります。海外と交流することで必然的に自国の社会と他国を比較して疑問を持つようになり、多くの場合それが変化に繋がります。

女性の地位向上

男女の役割についてより進歩的な意識を持つ社会では、人々はより高い英語能力を持っています。英語能力と金融機関に口座

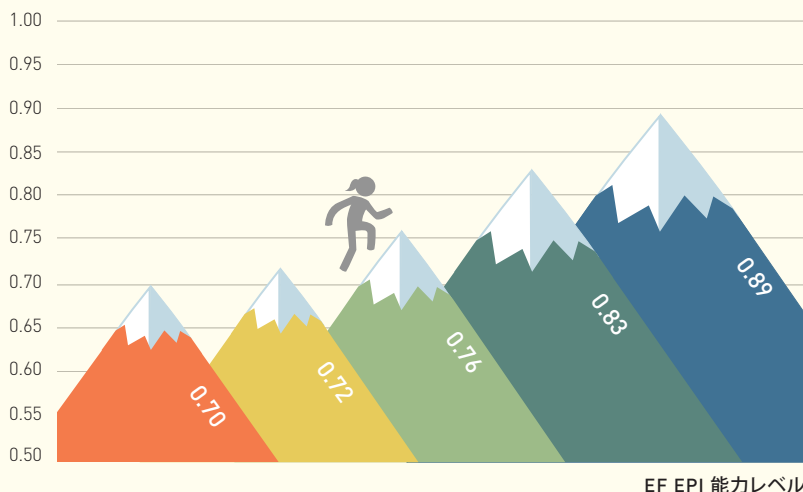
を持つ女性の割合の間、および就学前教育を受けている女兒の割合の間には強い相関関係が見られます[グラフJとK]。EF EPI全8版を通じて、地域、裕福さ、全体の英語能力レベルに関係なく、世界的にほぼすべての国で、女性の英語能力が男性よりも高いことが報告されてきました。女性は21世紀のあらゆる専門分野で必要不可欠な労働力となっており、家庭以外での女性雇用が最も少ない国々は、女性が教育を受け、職に就く機会を確保することで、最大の利益を見込むことができます。

世界経済フォーラムの『世界男女格差レポート』は経済活動、教育、政治的権限付与、健康における男女比を計測するレポートです。EF EPIはこの指数と密接な相関関係があります[グラフL]。繰り返しになりますが、単純な因果関係があるわけではありません。英会話は女性の権利を向上させません。と言うよりも、男女平等を重んじる社会はより経済的に豊かで、より開放的であり、より国際感覚が養われており、これらは英会話能力が最も高い人々が暮らす場所であるということが言えるでしょう。

質の良い生活

人間開発指数(HDI)は、平均寿命、教育、国民一人当たりの所得に基づいて国民の生活の質をランク付けします。各EF EPI英語能力レベルの平均HDIスコアを見ると分かるように、英語と生活の質は正の相関があります。

人間開発指数スコア

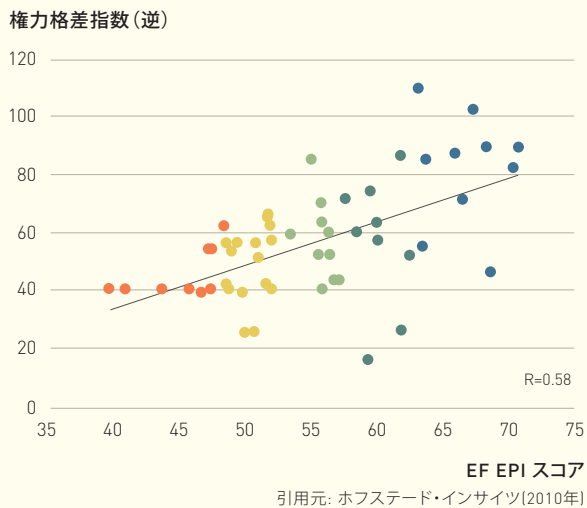


能力レベル

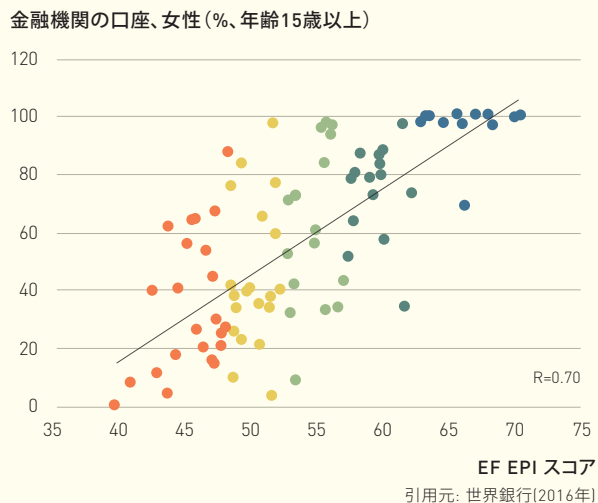
- 非常に高い
- 高い
- 標準的
- 低い
- 非常に低い

引用元: 国連人間開発報告書(2016年)

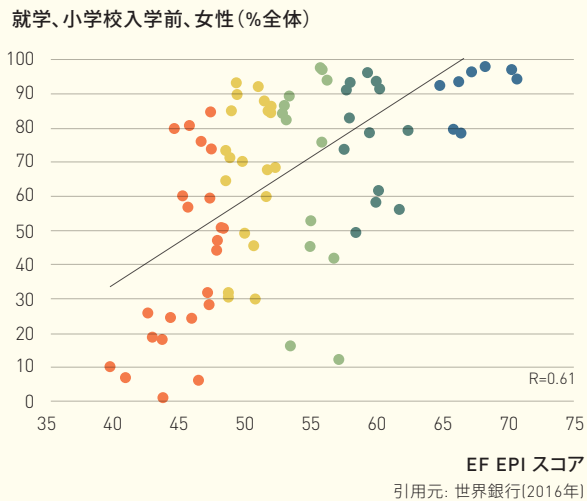
グラフ I
英語と権力格差



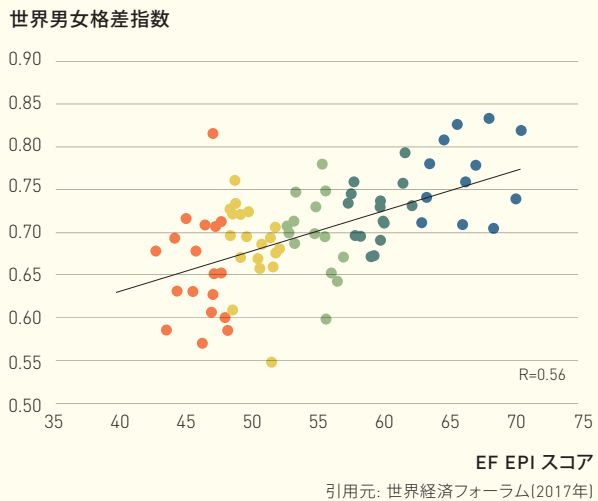
グラフ J
英語と銀行口座を持つ女性



グラフ K
英語と女子園児



グラフ L
英語と男女平等



能力レベル

● 非常に高い ● 高い ● 標準的 ● 低い ● 非常に低い

英語とテクノロジー

英語能力と良好なインターネット接続があれば、人々は世界中からより多くの知識を得ることができ、海外の協力者を見つけることができ、より幅広いオーディエンスとアイデアを共有することができます。インターネットで最も訪問回数の多いウェブサイト1,000万件のうち、半分を超えるサイトが英語のサイトです。技術分野での最先端研究やイノベーションでもほぼ必然的に言語の融通性が求められます。科学技術リテラシーは英語能力を高めることも実証されています。インターネットを使用することで人々が英語に触れる機会が増えます。英語でより幅広い情報にアクセスできるようになり、海外と接することで英語スキルが構築される自己強化型の好循環です。実際に、ブロードバンド契約数や安全なサーバー数[グラフ MとN]などの計測に基づいたインターネットアクセスの普及率の高さは英語能力の高さと相関関係があります。

知識を共有する世界

世界最大のテクノロジー企業の大半が米国企業であり、最も一般的に使用されているプログラミング言語は、ほとんどが英

単語を基にしています。IT関連記事や技術研究はどの言語よりも多く英語で発行されています。その結果、英語能力が低い技術者は専門分野で重要なリソースにアクセスすることが困難になります。さらに広く見ると、新しい研究へのアクセスの制限がITインフラやeコマースの開発を管理することが可能な技術者層形成の妨げとなります。

テクノロジーと貿易

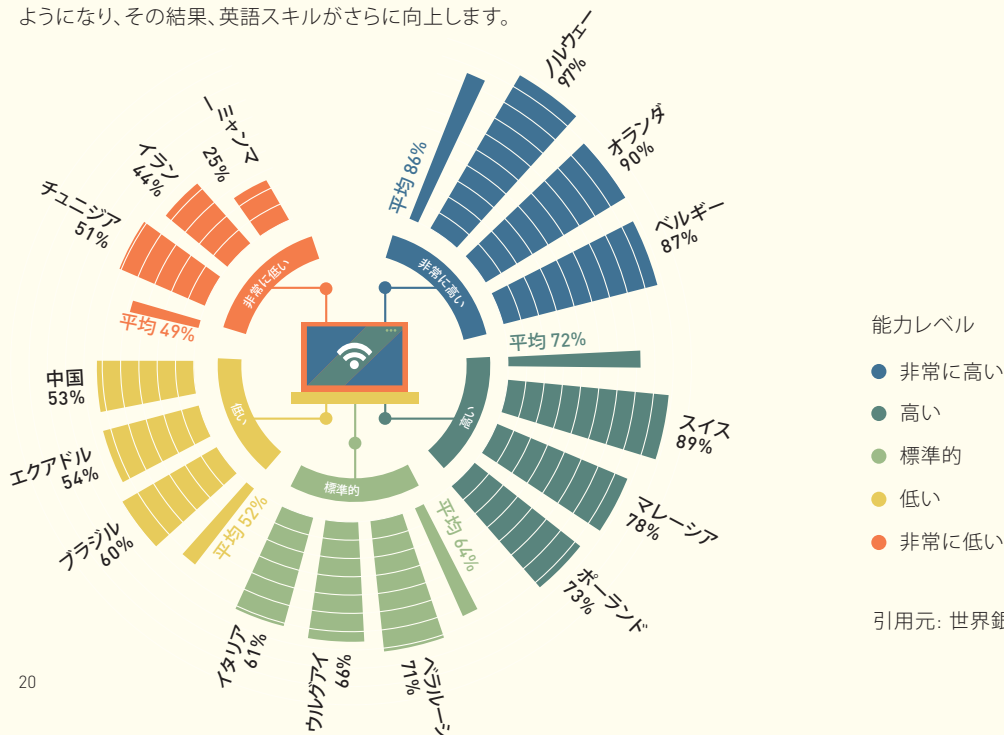
テクノロジーは既存の商業を強化するだけではありません。全く新しい取引の分野を創生します。WTOによると、2016年のテレコミュニケーション、コンピューター、情報サービスの輸出は1兆4,210億米ドルを超えました。これらのサービスの最大の輸出国は同年の世界における情報通信技術(ITC)輸出の半分近くを占めたヨーロッパです。これは、ICTサービスの輸出が英語能力と強固な比例関係にあること[グラフ O]、そしてテクノロジー業界における製造業付加価値もまた英語能力と強固な比例関係にあること[グラフ P]からも当然の結果と言えるでしょう。これらの分野に発展途上経済が進出するためには、技術技能に加えて、海外のクライアントと英語でコミュニケーションできる労働力も必要となります。

オンライン英語学習

テクノロジーは既に英語習得の最も強力な推進力の一つとなっています。デジタルツールやプラットフォームによって、個人の学習者が幅広い本物の英語資料に触れることができ、トップダウン方式の指導から解放されることができます。多くの場合、テクノロジーは、自国で利用できるトレーニングよりも高品質の英語トレーニングを提供することができます。論理的には、高速モバイル通信の普及と公共および民間のオンライン英語トレーニングの多様化が進めば、人々が自分に合わせて学習方法を選びやすくなり、正規の学校教育以外でも英語を向上させることが容易になります。人工知能、VR、その他の先端技術によって、より没入型で関連性の高いデジタルトレーニングの新時代が始まるかもしれません。しかしながら、実際には、多くのオンラインコースは普及率の低さと中退率の高さによって伸び悩んでいます。技術を利用した英語トレーニングの潜在能力を発揮させるには、魅力的なデザイン戦略とライブのオンライン指導を生徒に提供するプロバイダがさらに求められます。

仮想世界、現実のスキル

インターネットの平均普及率(インターネットにアクセスできる人々の割合)は、英語能力が高い国々でより高くなっています。オンラインと英語スキルによってより多くのコンテンツにアクセスできるようになり、その結果、英語スキルがさらに向上します。

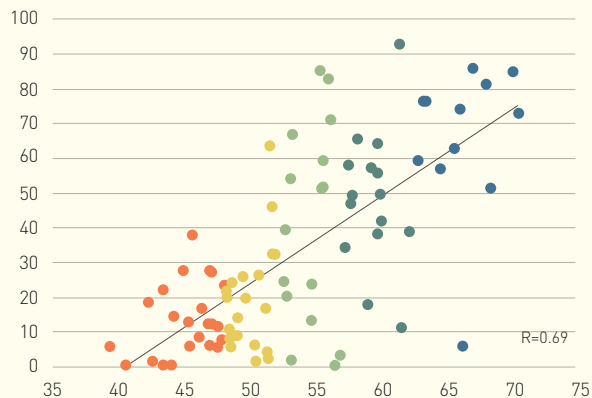


引用元: 世界銀行(2016年)

グラフ M

英語とブロードバンドアクセス

固定ブロードバンド契約数(100人あたり)



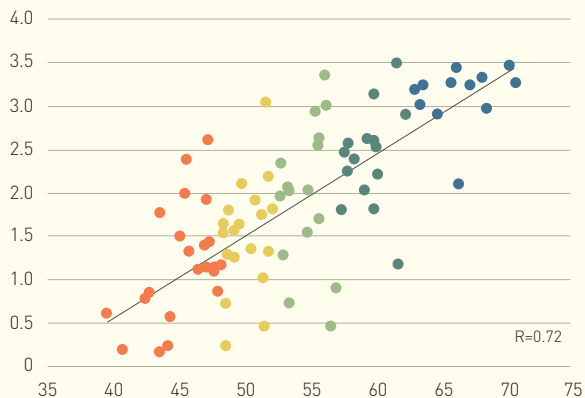
EF EPI スコア

引用元: 世界銀行(2016年)

グラフ N

英語とインターネットセキュリティ

安全なインターネットサーバー数(100万人あたり、対数目盛)



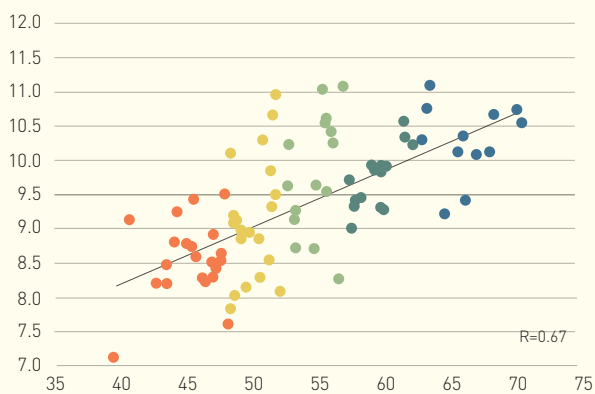
EF EPI スコア

引用元: 世界銀行(2016年)

グラフ O

英語と情報通信技術サービスの輸出

情報通信技術サービスの輸出(BOP、名目米ドル表示、対数目盛)



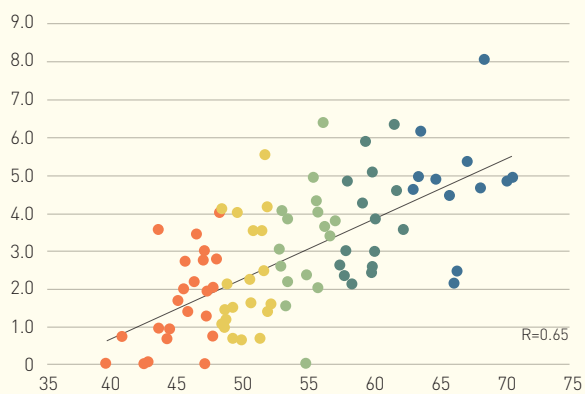
EF EPI スコア

引用元: 世界銀行(2016年)

グラフ P

英語とIT 製造業

メディアムテックおよびハイテク産業(%製造業付加価値)



EF EPI スコア

引用元: 世界銀行(2015年)

能力レベル

- 非常に高い
- 高い
- 標準的
- 低い
- 非常に低い

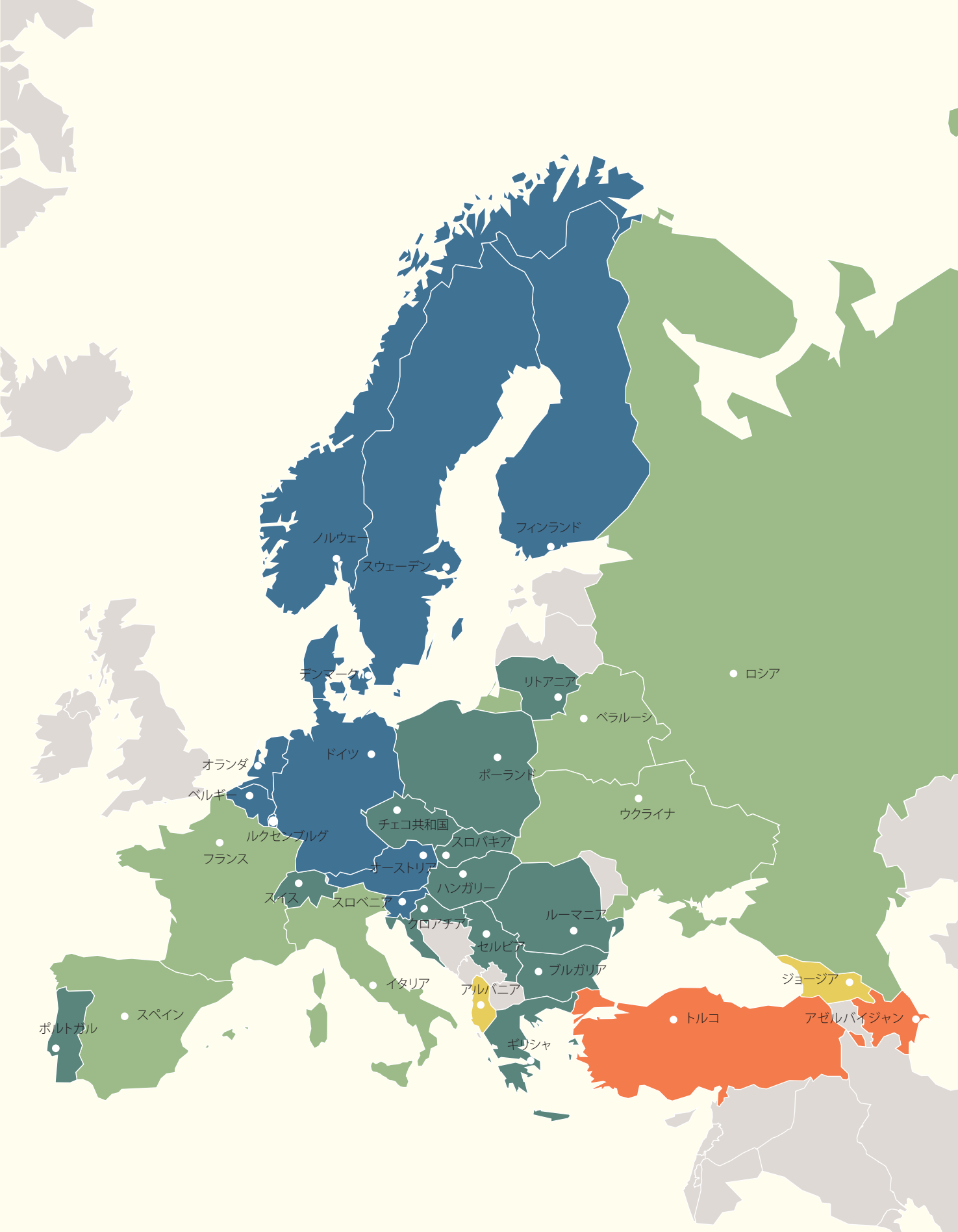
ヨーロッパ

EF EPI ランキング

01	スウェーデン	70.72	15	スイス	61.77	32	スペイン	55.85
02	オランダ	70.31	16	ルーマニア	60.31	34	イタリア	55.77
04	ノルウェー	68.38	17	クロアチア	60.16	35	フランス	55.49
05	デンマーク	67.34	18	セルビア	60.04	38	ベラルーシ	53.53
07	ルクセンブルグ	66.33	19	ポルトガル	60.02	42	ロシア	52.96
08	フィンランド	65.86	20	チェコ共和国	59.99	43	ウクライナ	52.86
09	スロベニア	64.84	21	ハンガリー	59.51	45	ジョージア	52.28
10	ドイツ	63.74	23	ギリシャ	58.49	52	アルバニア	51.49
11	ベルギー	63.52	24	スロバキア	58.11	73	トルコ	47.17
12	オーストリア	63.13	25	ブルガリア	57.95	77	アゼルバイジャン	45.85
13	ポーランド	62.45	26	リトアニア	57.81			

能力レベル

● 非常に高い ● 高い ● 標準的 ● 低い ● 非常に低い



国際主義による影響か？

ヨーロッパは間違いなく世界で最も英語能力の高い地域であり、元々高いレベルであるにも関わらず、昨年から平均スコアがさらに上昇しています。

本年度の指数で高いまたは非常に高い英語能力レベルに入った27か国のうち、22か国がヨーロッパの国々でした。ヨーロッパの成功は、数十年に渡って実施されてきた効果的な施策の成果です。EUが運営する世界最大の学生交流プログラム Erasmus+を通して、ヨーロッパからは毎年70万人以上の生徒と教師が留学しています。ヨーロッパの生徒の83%が10歳までに少なくとも一種類の外国語の学習を開始しており、13歳の97%が英語を学習しています。二度の壊滅的な大戦を経て少しずつ前進し続けてきた現代ヨーロッパは、多言語使用と国際協調を特長とした地域となりました。

ヨーロッパの英語力が突出

スウェーデンは過去 5 年間ににおける人口1人当たりの難民受け入れ数か他のどのヨーロッパ諸国よりも多かったにも関わらず、2年振りに第1位に返り咲きました。スウェーデンは欧州委員会が人材、投資、知的財産など27の指標を比較分析した2017年欧州委員会イノベーション・スコアボードでも第1位となっています。強力な教育制度、メディアを介した日常的な英語への接触、国際主義が根付いた文化により、スカンジナビア半島全体の英語能力は非常に高くなっています。

中央ヨーロッパは英語能力が高く、比較的低コストであることからビジネスハブとしての魅力が増している地域です。中央ヨーロッパでは、過去5年に渡り、英国とアイルランドへの若者の流出によって経済成長が停滞していましたが、英語スキルを身に付けて祖国に戻る人々が増えています。チェコ共和国、ハンガリー、ルーマニアは失業率が6%未満になっています。ルーマニア、ポーランド、ブルガリア、スロバキアでは、購買力平価における国民一人当たりの国内総生産額が2004年の2倍を超えています。これらの国々では、英語によって国際投資が促進され、ビジネス環境が改善しています。

いくつかの例外も

イタリアとフランスの両国は昨年より英語能力が上昇しましたが、地域内での順位の上昇には至りませんでした。両国は他の主要な欧州経済に遅れを取っています。イタリアでは、2018年に裁判所がイタリア語保護の必要性から、大学が完全英語による学士課程を提供することを禁止する判決をしました。フランスでは、若い、英会話能力のある大統領のリーダーシップの下、国内におけるスキルの差を縮小するため、継続的な教育資金調達スキーム、実習プログラム、格差削減のための高等学校

卒業試験などの改革が議論されています。しかしながら、フランスではフランス語の保護が常に最優先にされてきています。英語が母国語に対する脅威と認識されると英語能力は伸び悩むこととなります。

欧州単一市場外の欧州諸国は近隣諸国に比べて英語能力の低さが歴然としており、共同市場全体としては平均スコアが10ポイントも低くなっています。これらの国々とヨーロッパの密接な結びつきを妨げている要因は言語だけではなく、コミュニケーションの壁によって発展が困難になっています。

依然格差の大きいヨーロッパ

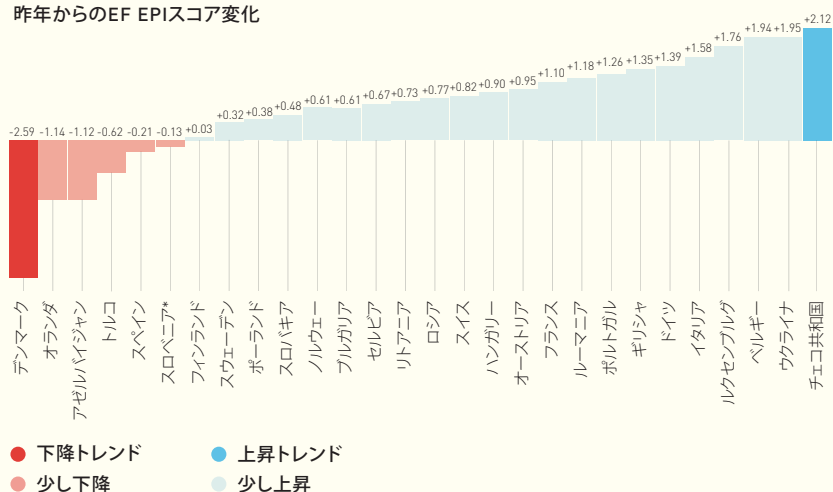
EUの求心力強化に向けた不断の努力にもかかわらずヨーロッパ各国の足並みはそろっていません。そうした傾向は各国の英語能力の差にも反映されています。スウェーデンとフランスの英語能力の差は15ポイント以上の開きがあり、ヨーロッパ周辺国を含めると、最高レベルと最低レベルの国々の格差は世界規模の格差と同等の広がりを見せています。また、経済格差の広がりや移民問題、ナショナルアイデンティティに対する問いかけ等に起因するポピュリズムや反欧州統合感情は依然大きな課題として残されています。

EF EPIトレンド

ヨーロッパでは大きな変化はほとんど見られませんでした。多くの国々でスコア上昇がみられ、なかでもチェコ共和国が最も大きく向上しました。デンマークはヨーロッパ諸国の中で唯一大幅に下降しました。今年はヨーロッパの8か国がより高い英語能力レベルに上がり、他のどの地域よりも多い結果となりました。

*スロベニアは EF EPI第7版には掲載されていないため、それ以前の版の EF EPI からのスコアが掲載されています。

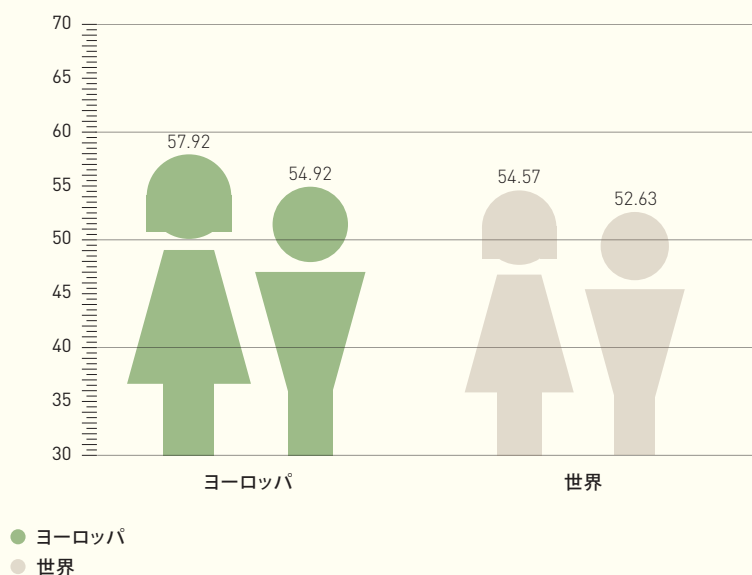
昨年からのEF EPIスコア変化



男女の差

ヨーロッパの男女の平均スコアは共に世界平均を大幅に上回っています。男女間のスコア差は昨年の2倍に広がっており、昨年と比較して女性のスコアは1ポイント以上上昇した一方で男性のスコアはわずかに下降しました。ヨーロッパにおける男女間の英語スキルの差はアジアや中南米の2倍となっています。

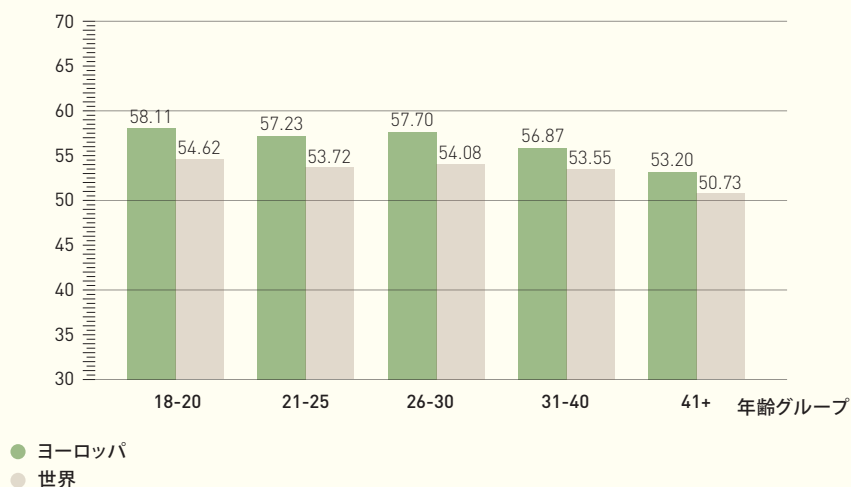
EF EPI スコア



世代間の差

ヨーロッパでは、すべての世代で世界の平均を上回っています。昨年と比較すると、25歳を超える成人はわずかに向上しており、40歳を超える成人が最も大きく向上しています。18~20歳の若年成人グループのみ下降しています。

EF EPI スコア



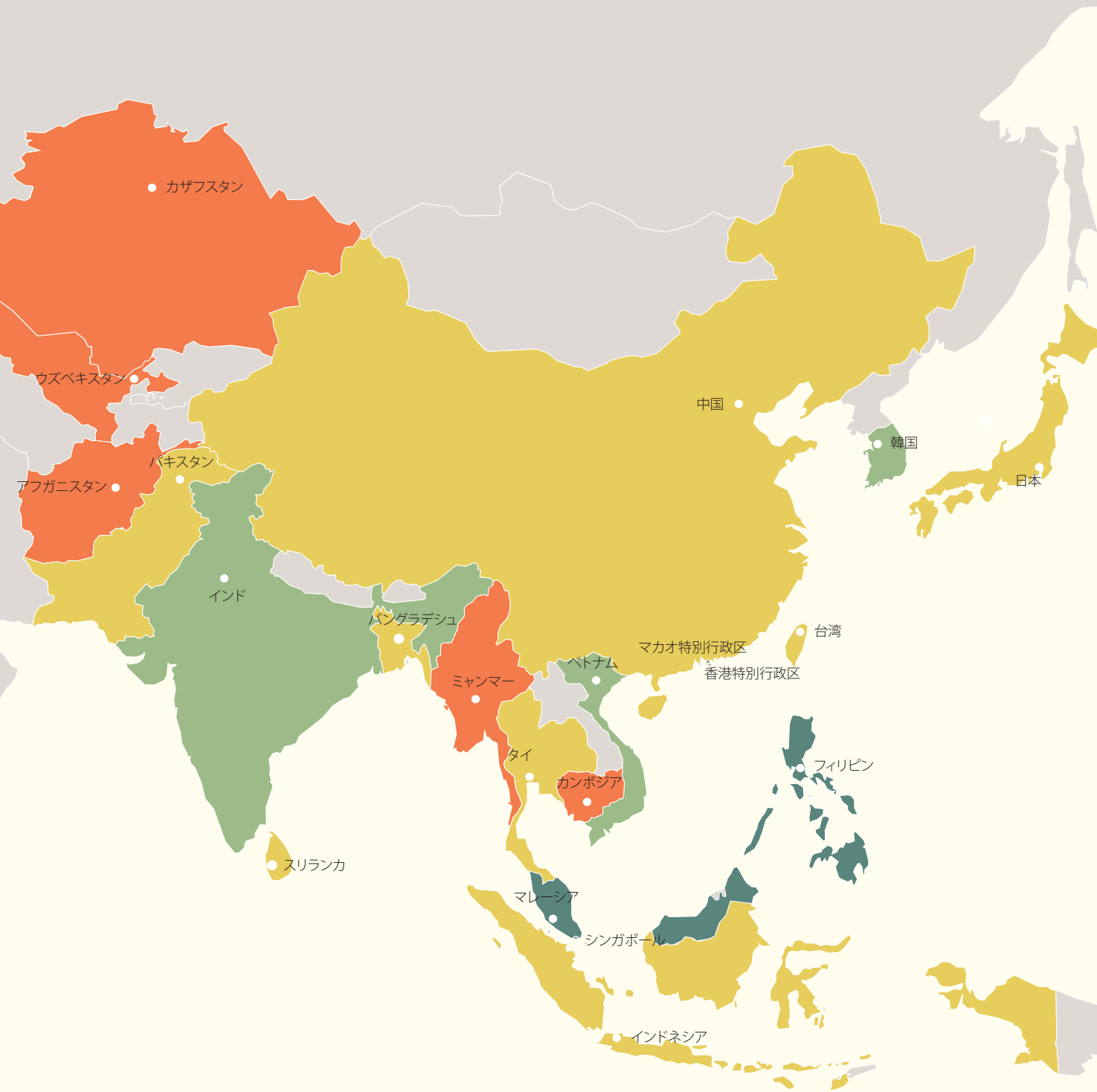
アジア

EF EPI ランキング

03	シンガポール	68.63	44	マカオ特別行政区	52.57	63	バングラデシュ	48.72
14	フィリピン	61.84	47	中国	51.94	64	タイ	48.54
22	マレーシア	59.32	48	台湾	51.88	80	カザフスタン	45.19
28	インド	57.13	49	日本	51.80	82	ミャンマー	44.23
30	香港特別行政区	56.38	50	パキスタン	51.66	84	アフガニスタン	43.64
31	韓国	56.27	51	インドネシア	51.58	85	カンボジア	42.86
41	ベトナム	53.12	58	スリランカ	49.39	86	ウズベキスタン	42.53

能力レベル

● 非常に高い ● 高い ● 標準的 ● 低い ● 非常に低い



中途半端な策は無用

アジアはどの地域よりも英語能力の幅が大きく、今年の指数では3か国が上位4分の1に入っている一方で4か国が最下位の10%に入っています。

アジアの成人の英語能力は昨年と比較すると大きな変動はなく安定しています。一方で、昨年と今年の両方の指数に含まれている国と地域の半数が1ポイントを超える上昇または下降を見せており、この広大で人口の多い地域に規則性はありません。

広く認められている英語の価値

貿易とテクノロジーの急速な成長に伴い、英語能力の高いアジア諸国は成功を収めています。EF EPIで常に10位以内に入っているシンガポールでは、1960年以降GDPに対する貿易額の比率が300%を超えています。インドはオフショア業務が有名ですが、人口がインドの十分の一に満たないフィリピンには、インドよりも多くのコールセンターがあります。

しかしながら、アジア諸国の中には、暗記重視の英語教育が未だに行われている国があります。特に、中国が製造業中心の経済から知識集約型経済へと変化するためには、高い英語コミュニケーションスキルを持つ人材がもっと必要とされます。エコノミスト誌によると、現在のペースであれば、中国のテクノロジー業界は15年以内に米国に並ぶことが予想されています。しかしながら、この急速な成長にも関わらず、2016年に出版された中国の科学論文で国際共著者が挙げられているのは 25%

未満です。このような現状に反して、中国では英会話能力の価値が広く認識されています。調査を受けた保護者の70% が子供に学校でもっと英語を学んで欲しいと回答しています。学校卒業後も英語学習の継続を希望する生徒や、英語の義務教育の内容に不満のある生徒には、学校以外にも様々な学習方法が提供されています。中国では英語塾の市場が毎年22% 成長していると推測されています。

日本の英語能力は昨年よりわずかに下降しましたが、変化の兆しが見られます。日経225銘柄の約15%の企業が少なくとも1名の非日本人が取締役員となっており、2017年には日本で勤務する外国人従業員が初めて100万人を超えました。高齢化が急速に進む中、日本は海外からの若い労働力の流入から恩恵を受けることができるでしょう。日本では英語教師に対する明確な研修制度のないまま、英語が2020年から小学校の必須科目になりますが、英語能力を向上させるためには、まだまだやるべきことが多くあります。

抜本的な改革

多くの国々で、英語教育の欠陥にはより大規模な制度の問題が反映されています。ミャンマーではGDPのわずか2%しか教育に割り当てられておらず、バングラデシュ

では教師の3分の1が教員資格を持っていません。深刻な教育格差に直面しているパキスタンは、低迷している制度の民営化を中核として、猛烈な勢いで学校改革を進めています。パンジャブ州では民間教育機関が4,300校を民営化しており、今年末までには10,000校以上が民営化されることが予想されています。パキスタンの教育制度には公的資金よりも多額の民間資金が投資されています。このような民営化がより良い教育結果をもたらすかどうかは今後も見守る必要がありますが、制度が極度に低迷している中では、公的機関と民間機関の提携を広めることが制度全体の改革よりも迅速なソリューションであることが実証されています。

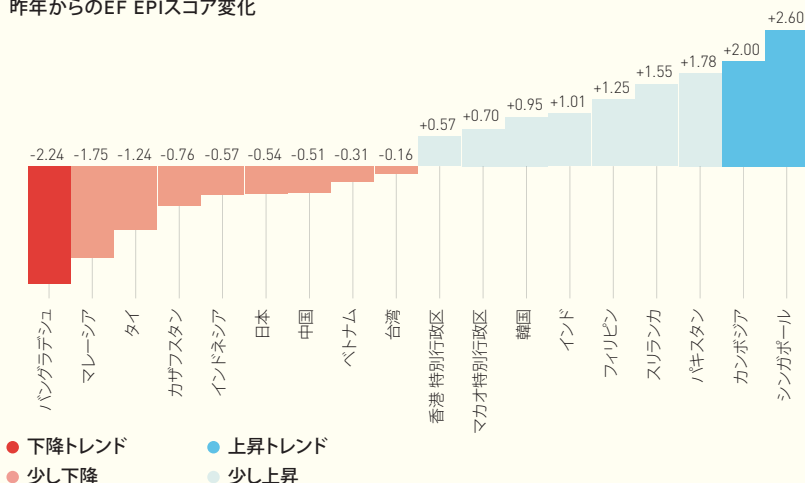
労働者は取り残されたまま

アジアの多くの地域では、非正規雇用や一時雇用が蔓延しており、企業による英語スキル向上を目的とした継続的な従業員教育を受けられる労働者が少なくなっています。韓国では労働力の半分以上を非正規雇用が占めており、インドの労働力の90%が契約のないまま雇用されています。学校での英語教育は重要ですが、高齢化の進む国々では、成人の英語学習の援助なしに英語能力を向上させることは不可能でしょう。

EF EPIトレンド

調査対象となったアジアの18の国と地域のうち、半数の9か国が向上し、残りの9か国は向上しませんでした。シンガポールとカンボジアは今年のスコアが大幅に上昇し、バングラデシュは大幅に下降しました。低い能力レベルから一段階上のレベルに上がった国はスリランカとマカオ特別行政区の2か国のみです。

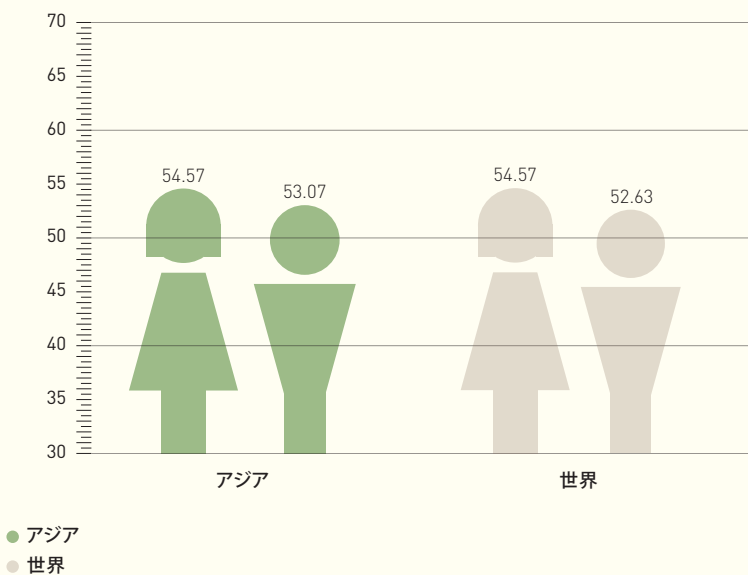
昨年からのEF EPIスコア変化



男女の差

アジアの男女のスコアは世界平均と同等です。ヨーロッパと同様、アジア人女性の英語はわずかに向上しましたが、男性のスコアはわずかに下降し、アジアにおける男女間の差は、昨年の0.5ポイントから大きく差が開き、今年は1.5ポイント差になっています。

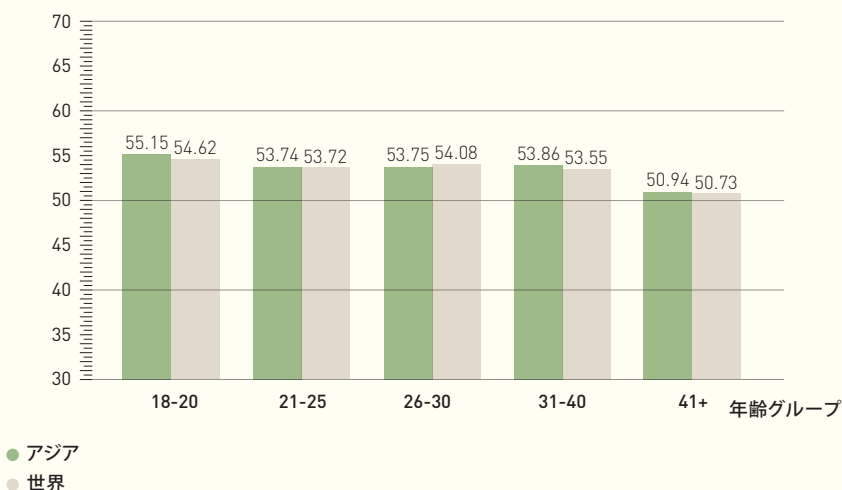
EF EPI スコア



世代間の差

アジアでは今年初めて英語能力の世代差が見られるようになりました。この世代間の差は世界トレンドと同じですが、すべての年齢グループのスコアがほぼ横並びだったアジアではこれまでに見られなかった傾向です。18~20歳代グループ以外のすべての年齢グループの英語能力が下降しており、40歳以上の年齢グループが最も大幅に下降しています。

EF EPI スコア



中南米

EF EPI ランキング

27	アルゼンチン	57.58	59	ペルー	49.32
36	コスタリカ	55.01	60	コロンビア	48.90
37	ドミニカ共和国	54.97	61	ボリビア	48.87
40	ウルグアイ	53.41	65	エクアドル	48.52
46	チリ	52.01	69	ホンジュラス	47.80
53	ブラジル	50.93	70	エルサルバドル	47.42
55	グアテマラ	50.63	72	ニカラグア	47.26
56	パナマ	49.98	75	ベネズエラ	46.61
57	メキシコ	49.76			

能力レベル

● 非常に高い ● 高い ● 標準的 ● 低い ● 非常に低い



進歩なき成長

中南米は2017年以降に英語スキルの成人平均が下降した世界で唯一の地域です。

この分析結果は、スコアが地域平均を下回るボリビア、ホンジュラス、ニカラグアの初参加の影響を反映していますが、下降の主な原因となったのは地域内で最も人口が多く、英語能力の低下が見られたメキシコとブラジルです。過去数十年の間、中南米はすべての子供たちが教育を受けられる社会にするため著しい進歩を遂げてきましたが、両地域とも、いまだに高レベルの経済格差、脆弱な民主主義、暴力の蔓延に苦しめられており、スキルを持った労働力の育成が妨げられています。

破綻した制度

農村地域の一部に住む子供たちは、依然として教育へのアクセスが不足している場合もありますが、中南米の主要課題は教育成果の低さです。UNESCOの試験結果では、中南米の小学校3年生の50%が算数の基礎レベルに到達しておらず、30%が基本的な読み書き能力を習得していないことが示されています。PISAの最新の結果では、中高生にも同様の傾向が見られます。スキルの欠乏には、教育制度が抱えているより大きな問題が反映されており、英語指導もその影響を受けています。生徒数の多すぎる学校、教師の低い賃金、教師のトレーニング不足も、すべて問題を悪化させている要因です。

アルゼンチン、チリ、コスタリカの教育制度は、経済の多様性が進んでおり、大学在籍率も高く、ベネズエラやニカラグアなどの地域とは非常に異なっているように見えます。しかしながら、英語能力レベルを見てみると、これらの国々には大差がありません。実際、中南米は世界で最も英語能力スコアの差が少なく、最高スコアの国と最低スコアの国の差は12ポイント未満です。驚くべきことに、地域内の国々には共通の言語があるにも関わらず、地域内の国同士よりも米国、EU、中国との貿易の方が盛んに行われています。

改革には時間が必要

地域内で英語能力が昨年から最も上昇した国はコスタリカです。教員トレーニングと教員資格授与の大規模な改革により、現在のコスタリカでは95%以上の教師が第3次教育を修了しており、求人に対して健全な競争が行われています。それでも、2015年に実施された教員評価では、40%の英語教師が指導しなければならないカリキュラムの内容を習得できていないことが分かっています。コロンビア、エクアドル、ペルーの3か国では、過去5年の間に英語講師の再訓練プログラムが開始されています。

格差問題への取り組み

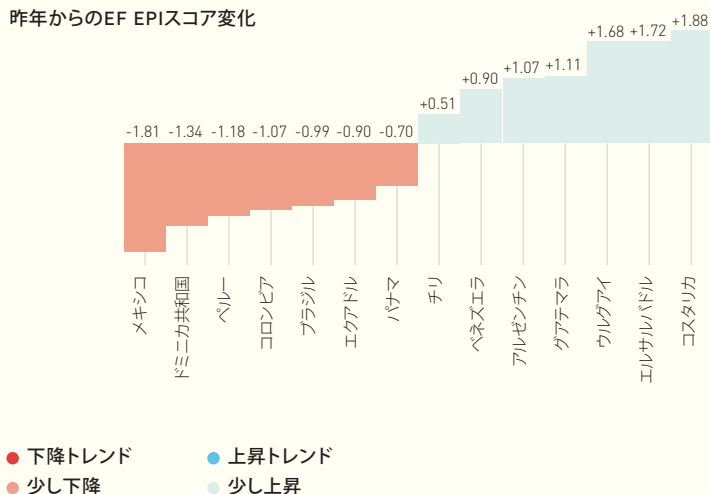
中南米の国々はスキルクライシスとも呼べる状況にあり、職場訓練も脆弱です。ヨーロッパでは労働者の半数がトレーニングを受けているのに対し、同年に何らかのトレーニングを受けた中南米の労働者は約10%だけです。小規模の家業が大多数を占める非正規雇用率の高さが要因の一つとなっています。国際労働機関によると、2013年におけるペルーの非正規雇用の割合は労働力全体の70%であり、地域全体としても労働者の半数が非正規雇用されていました。成人が専門的なトレーニングを受ける機会や昇進の機会がないと、生産性と英語能力を育成できず、進歩の可能性が減少し、既存の格差が増大されてしまいます。

格差は中南米が直面している困難の中で最も大きな問題でしょう。2000年代を通して、地域内における収入や賃金の格差は共に減少していますが、世界銀行のデータ(2016年)によると、中南米の8か国が世界で最も格差のある国々の上位20位に入っています。格差は多面的な問題ですが、より強力な英語教育を含むより強力な教育制度は解決の一端を担うでしょう。英語はスキルの取得や世界的なネットワークへのアクセスを可能にし、社会の流動性を推進する助けとなります。

EF EPIトレンド

世界の他のどの地域とも異なり、中南米にはスコアが大幅に変化した国はありません。アルゼンチンは標準的な英語能力レベルに落ちた昨年のわずかな下降から巻き返しました。ウルグアイは小幅な上昇を見せ、低いレベルから標準的なレベルに上がりました。

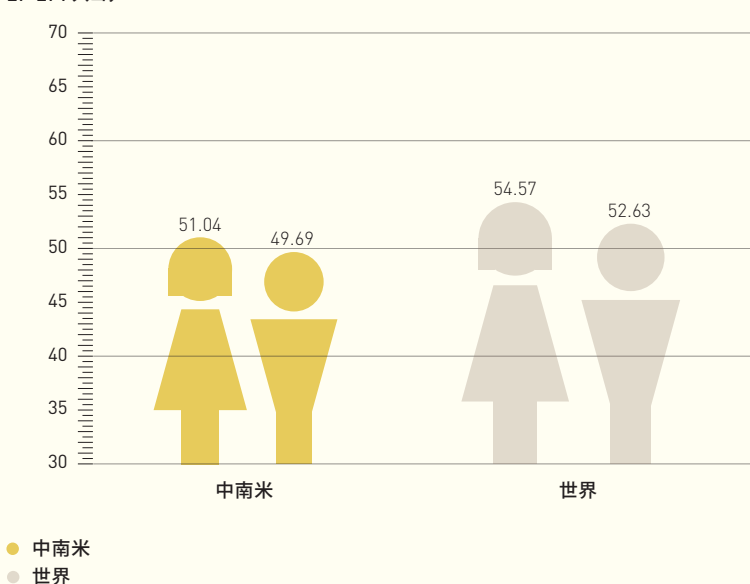
昨年からのEF EPIスコア変化



男女の差

中南米のスコアは男女ともに世界平均を大幅に下回っています。前版では、中南米が世界で唯一、男女間の英語能力の差がない地位でしたが、今年は女性がわずかに上昇し、男性は下降したため、アジア地域と同等程度の男女間の差が生じています。

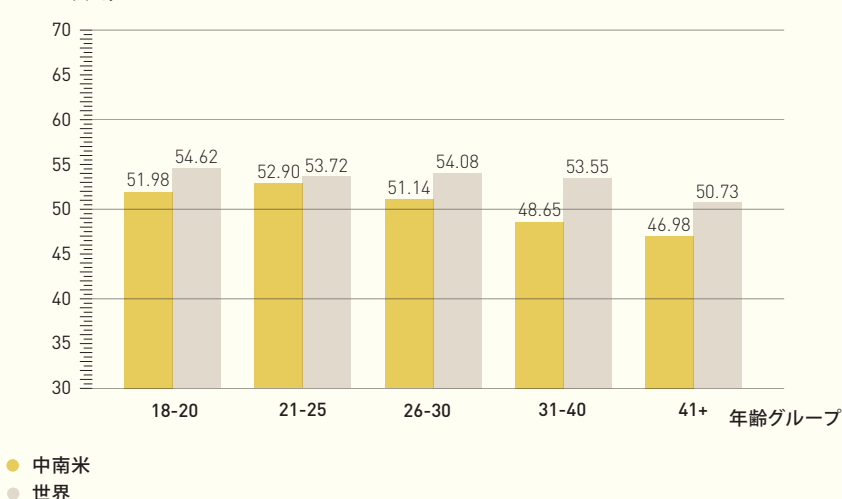
EF EPI スコア



世代間の差

中南米では、すべての年齢グループが世界平均を下回っており、30歳以上の成人では海外の同世代と比べて差が最も大きくなっています。前回は18～20歳が最も能力の高い年齢グループでしたが、今年は21～25歳に推移しており、地域内での高等教育の改善が示唆されます。最も若い年齢グループがわずかに下降している点には不安が残ります。

EF EPI スコア



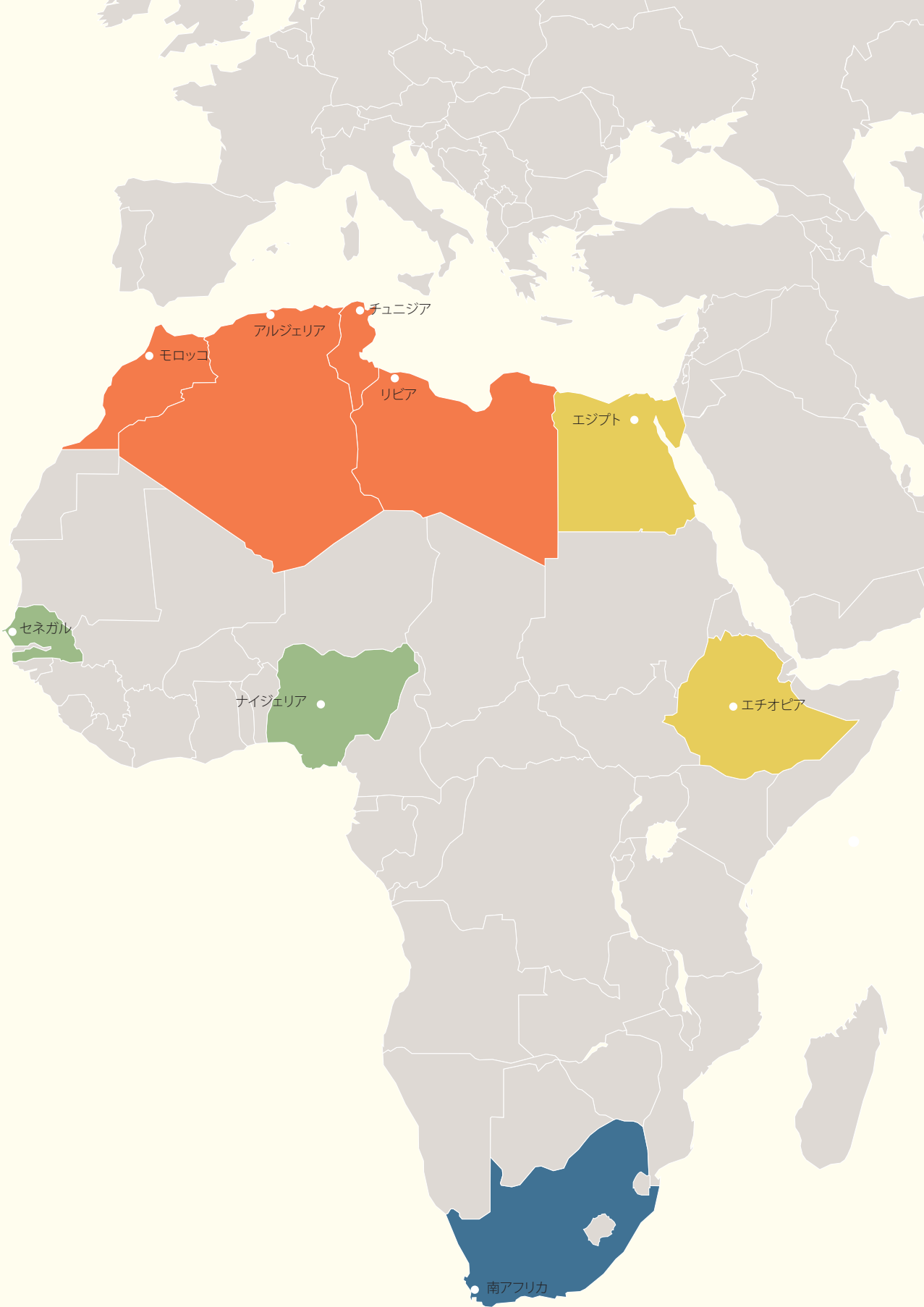
アフリカ

EF EPI ランキング

06	南アフリカ	66.52	67	モロッコ	48.10
29	ナイジェリア	56.72	68	チュニジア	47.85
39	セネガル	53.50	81	アルジェリア	44.50
54	エチオピア	50.79	88	リビア	39.64
62	エジプト	48.76			

能力レベル

● 非常に高い ● 高い ● 標準的 ● 低い ● 非常に低い



溢れ出る潜在能力

2016年と2017年の間、アフリカの英語能力スコアは世界のどの地域よりも大きな向上を見せました。

今年の分析結果はデータ不足によってアンゴラとカメルーンが今年の指数から除外された影響が反映されています。しかしながら、それよりもはるかに強い要因は、アフリカ大陸で最も人口の多い複数の地域で確たる向上が見られたことです。エジプトとナイジェリアは大幅な上昇を見せ、南アフリカのEF EPIスコアは世界の他のどの国よりも大幅に上昇しました。現在、アフリカの成人の英語能力の平均スコアはアジアのスコアと類似していますが、本データに含まれるアフリカ諸国は9か国に留まっており、アフリカ大陸の全体像を把握することは困難です。

実用的なアプローチ

アフリカ大陸で最も英語能力が高かった南アフリカには、英語を含む11種類の公用語が使用されています。言語の異なるコミュニティが多数存在する国では、多言語使用が当たり前です。2011年の人口調査では、英語を母国語とする人口は10%ほどしかいませんが、英語は媒介語としてメディアで広く使用されており、都市部では特にその傾向が顕著です。英語は民族性や植民地との結びつきのないより包括的な言語として、政府や高等教育での公用語として採用されています。

西アフリカでは、ナイジェリアとセネガルが急速に増加を続ける人口に対して、十分なインフラを構築し、良質な教育を提供するための取り組みを続けており、両国共に標準的な成人の英語能力を達成しています。ナイジェリアでは、都市部のエリート層は通常、英語のネイティブスピーカーですが、都市部以外では、英語が唯一の公用語であるにも関わらず、英語が話される機会は少なくなっています。セネガルではフランス語が唯一の公用語ですが、英語の重要性も同様に高まっています。どちらの国でも、英語クラブ、英会話グループ、モバイル学習プラットフォームの人気の高まっています。西アフリカにおける英語学習へのアプローチは実用性が非常に重視されている傾向があり、技術的な文法のルールを習得するよりも、実用的なコミュニケーションが中心となっています。このように実用性に重きを置いたことが結果に繋がっています。

新たな英語の受け入れ

北アフリカは非常に未発達な英語能力を含め、大陸の他の地域と多くの点で異なります。北アフリカの成人は中東の成人と同等レベルの英会話能力があります。しかしながら、北アフリカでは多言語使用が一般的であり、アルジェリア、モロッコ、チ

ュニアは複雑な言語背景があり、アラビア語、ベルベル語、フランス語、現代標準アラビア語が私生活、教育制度、公共の場でそれぞれ異なる役割を担っています。英語は比較的新参の言語ですが、その中立性とビジネスの可能性から価値が高まっています。民間企業が停滞しているエジプトでは、今年の英語能力の向上は歓迎すべきニュースかもしれません。解放性と国際貿易が増えることで、北アフリカは大きな利益を得ることができるでしょう。

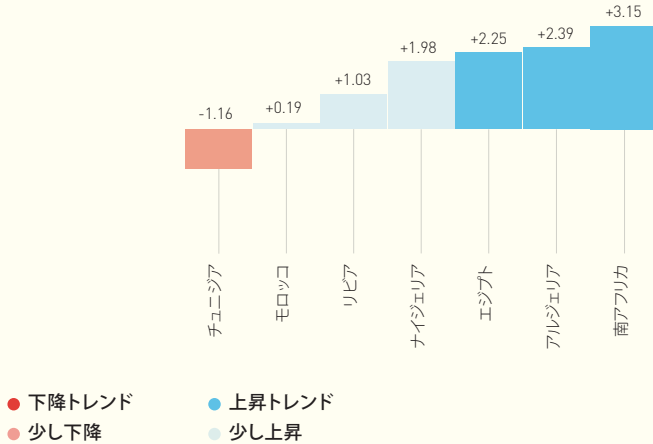
様々な障害

アフリカの国々はそれぞれ異なる英語能力育成の障害に直面しています。チュニジアやモロッコなどの一部の国々では、公営企業の占める割合が大きすぎる労働市場と非常に高い若者の失業率によって、学習に対するインセンティブはほとんど提供されておらず、意欲のある生徒の多くが海外へと流出しています。その他にも、エチオピアなどの国は教育制度の質が低く、学校インフラが不足しています。さらにリビアのような国々では武力紛争が起きています。今後数年の間に、より多くのアフリカの成人が英語テストを受験できるようになり、この広大で多様性豊かな大陸における成人英語能力レベルのより明確な全体像を把握できることを願っています。

EF EPIトレンド

今年、EF EPIに掲載されているアフリカ諸国のほとんどの国で英語能力が向上を見せており、他のどの地域よりも多くの数の国が大幅に向上しました。エジプトはより高い能力レベルへと上がりました。南アフリカは世界のどの国よりも大幅な能力の向上が見られました。アフリカ諸国の中で、本年度の指数でわずかに下降したのはチュニジアだけで、低いレベルから非常に低いレベルに下がりました。

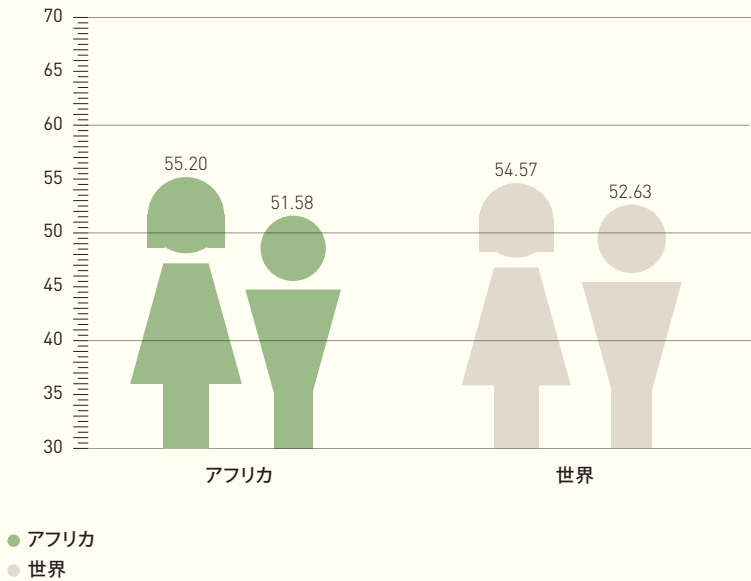
昨年からのEF EPIスコア変化



男女の差

アフリカの男女間の差は他のどの地域よりも大きく、今年はその差がさらに広がりました。アフリカ人女性が世界のどの性別グループよりも大幅に英語能力を向上させたことが要因です。アフリカ人女性の英語スキルはヨーロッパ人男性を上回っており、ヨーロッパ人女性をわずかに下回っているだけです。

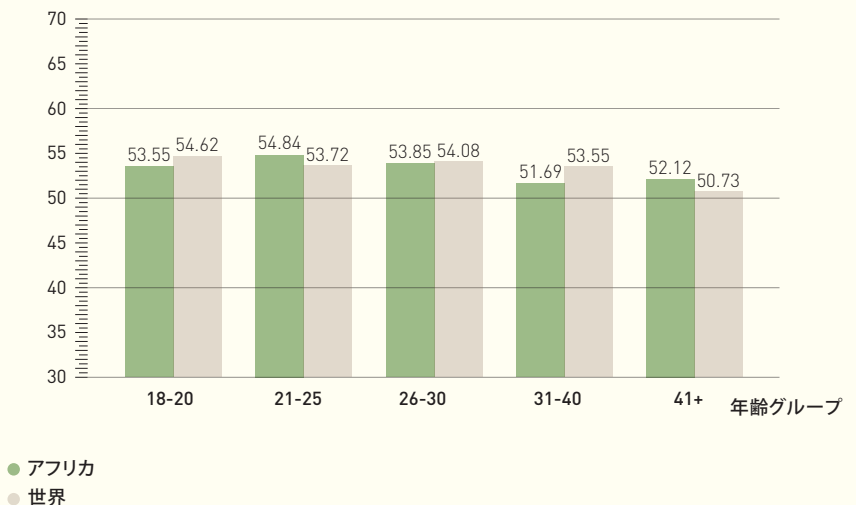
EF EPI スコア



世代間の差

今年、アフリカでは20歳以上の全年齢グループで英語能力が向上し、26～30歳のグループが最も向上しました。アフリカの年齢グループの中にはわずかに世界平均を下回っているグループもまだありますが、40歳以上の成人の能力がそれを凌いでいます。中南米と同様、アフリカでも最も能力の高い年齢グループが18～20歳から21～25歳へと推移しています。

EF EPI スコア



中東

EF EPI ランキング

33	レバノン	55.79	78	クウェート	45.64
66	イラン	48.29	79	オマーン	45.56
71	アラブ首長国連邦	47.27	83	サウジアラビア	43.65
74	ヨルダン	47.10	87	イラク	40.82
76	シリア	46.37			

能力レベル

● 非常に高い ● 高い ● 標準的 ● 低い ● 非常に低い



レバノン

シリア

ヨルダン

イラク

イラン

クウェート

サウジアラビア

アラブ首長国連邦

オマーン

社会変革に向けた努力

3大陸が交わる場所に位置する中東は、貿易、地政学、教育制度が地理的な影響を大きく受けています。

交差点としてのステータスに反して、中東は世界のどの地域よりも英語能力が低くなっています。中東は平均年齢が25歳と最も年齢の若い地域の一つでもあり、大きな変化の可能性を秘めています。

変化の兆し

湾岸協力理事会 (GCC) のすべての参加国が、石油を基盤とした経済からの脱却の必要性を認識し、政府主導で仕事と教育への投資を相次いで開始しており、その取り組みの多くが英語能力の向上に繋がる可能性を秘めています。これらの取り組みの一つであるサウジアラビアの「ビジョン2030」は海外投資と観光を通じた国家経済の多様化を目的としており、アラブ首長国連邦の「ビジョン2021」は国家を知識集約型経済へと変遷させることを目的としています。アラブ首長国連邦はGCC参加国の中で英語能力が最も高い国です。国民の大部分が海外で生まれており、英語のような日常生活での公用語の必要性がより切実です。

サウジアラビアはアラブ圏最大の経済国家で、2018年のタイムズ・ハイアー・エデュケーション世界大学ランキングで、中東

地域で最高順位となったキング・アブドゥルアズィーズ大学があります。しかしながら、開発格差のある広大な国土に人口が分散しており、学校でアクセス可能な英語指導にもばらつきがあります。サウジアラビアでは、政府が目指すよりグローバル化された新たな自国市場の要求に応えるため、若者は英語が必要となり、女性も男性と共に働くようになるでしょう。この文化的な変遷を達成するためには、英語トレーニングと職業スキルアッププログラムが必要不可欠となるでしょう。

レバノンは今年初めて指数に含まれました。レバノンの英語能力は地域平均を大きく上回っており、地域全体のスコアをわずかに上昇させました。レバノンの大学および塾の多くはアラビア語以外の言語を使用しており、中東で最も多言語使用の進んだ国となっています。隣国のヨルダンでは、大学のほとんどで教授言語として英語が使用されているのにも関わらず、地域平均と横並びの英語能力レベルとなっています。この違いは残念ながらほとんどのアラブ諸国で見られる現象であり、公立学校での英語指導レベルと大学レベルで求められる英語能力の大きな差が原因かもし

れません。成人のほとんどが大学へ通う機会を持たないため、その差が埋まることはありません。

危機的な状況の難民

シリアとイラクの紛争によって大勢の人々が住む場所を失い、一部の都市では教育が完全に停止しています。安定化が進めば公的教育が復旧する望みも出てきますが、何百万人もの人々が暴力と困窮に苦しめられている間は、英語学習よりも差し迫って必要なものが多くあります。

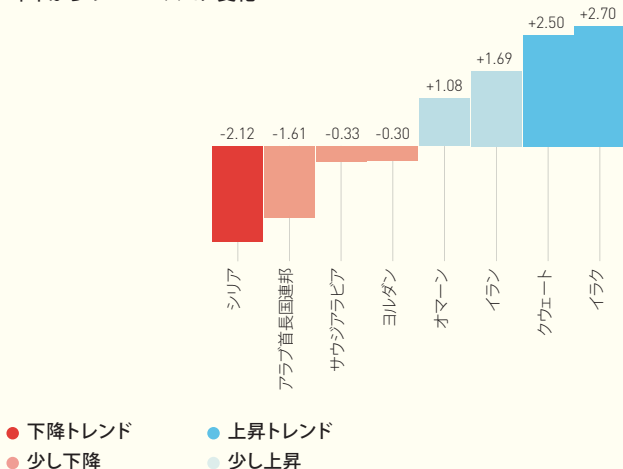
未来は不透明

若い世代にグローバルな労働力として必要なスキルを身につけさせたい中東の国々は、脆弱な経済、終わらない紛争、公的機関への行き過ぎた雇用依存などの困難に直面しています。これらの困難を乗り越ければ、地域に変革をもたらす効果が生まれ、中東地域の低い英語能力の向上が変革の重要な一端を担うでしょう。地域内に緊張があり、世界のエネルギー市場が変化し続ける中でそのような変革がスムーズに実現するのか今後も見守っていく必要があります。

EF EPIトレンド

中南米やアジアと同様に、中東も英語能力の向上した国々としなかった国々が半々に分かれています。イラクとクウェートは今年大きく向上しましたが、より高い能力レベルに上昇するには至りませんでした。アラブ首長国連邦はわずかに下降したのですが、低いレベルから非常に低いレベルへと下がっています。

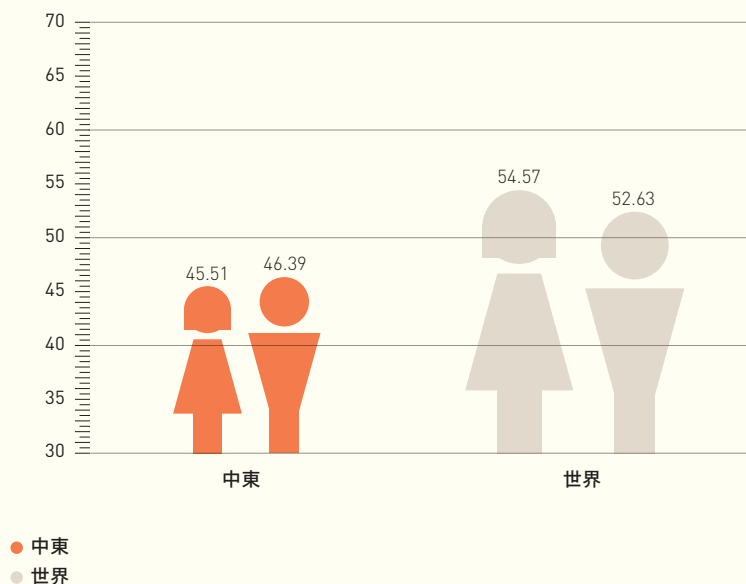
昨年からのEF EPIスコア変化



男女の差

中東は世界で唯一、男性の英語能力が女性を上回っている地域です。昨年の結果では男性がわずかにリードしており、今年はその差が開きましたが、世界で最も男女差が小さい地域であることに変わりありません。中東では男女共に英語能力が向上しましたが、英語能力は世界平均を大幅に下回ったままです。

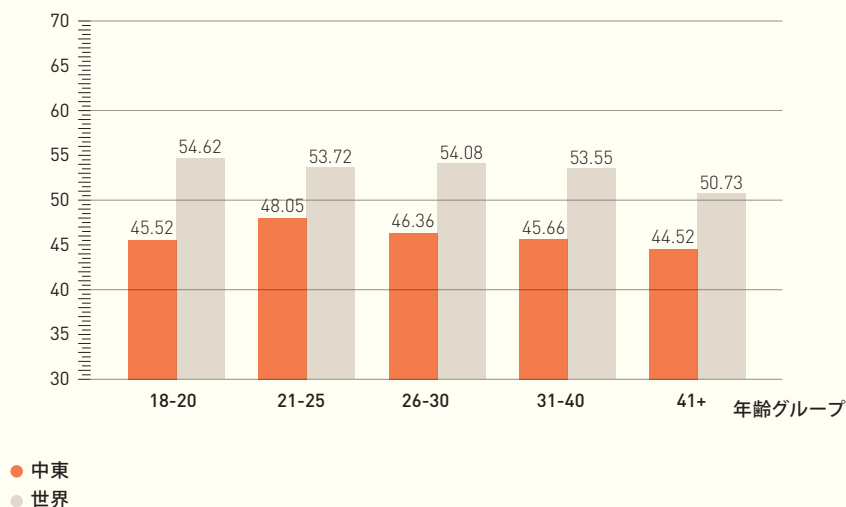
EF EPI スコア



世代間の差

今年が一番若い年齢層を除くほぼすべての年齢グループの英語能力が向上しました。中南米やアフリカと同様、中東地域で英語能力が最も高かったのは21～25歳のグループです。すべての年齢グループが世界平均を大きく下回っていますが、最も世界平均との差が大きかったのは残念ながら最も人口の多い18～20歳の成人グループでした。

EF EPI スコア



結論

英会話を学ぶことで、より良い仕事や新たな機会を得ることができます。また、職業的に成長することができ、世界で共有されている知識にもアクセスできるようになります。

これらを含む様々な理由から、何百万人もの保護者たちが子供の英語家庭教師、夏休み留学プログラム、オンライン英語教育プログラムに投資しています。また、同様の理由から何百万人もの社会人が自身の英語教育に投資しており、政府も学校の教科課程の重要な教科として英語を含めています。

ウェブプログラミング、会計、数学の基礎知識、識字能力などのその他のスキルも非常に高い価値がありますが、これらの知識はすでに公立学校で提供されているか、または特定の職種を通してのみ取得できるのに対し、英語は正規の学校制度の垣根を超えた教育リソースが豊富に利用できる点が特徴的です。英語は幅広い職種で求められているにもかかわらず、ほとんどの生徒は学校で十分な英語を習得することができていません。

個人だけではありません。企業、都市、地域、国家が英語能力の育成から利益を得られると考えています。英語は国際的な交渉、投資、可動性を容易にします。英語能力を持つコミュニティでは、エンジニアは

最新技術にアクセスすることができ、人事部は世界の人材から募集することができ、よりスムーズかつ包括的な合併を実現することができます。さらに付け足すと、英語能力は収入、平等、生産性などの主要な成長指標とも相関関係があります。

英語能力構築のための万能なアプローチというものは存在しませんが、英語スキルの高い地域や国々には次のような実績ある共通した戦略が存在しています：

- 英語が重要なスキルとして公的に認識されている
- すべての子供に小学校からコミュニケーション重視の指導方法で英語教育が行われている
- 生徒に対して英語能力の最低基準を設けており、基準に達しない生徒が出ないようテストを行っている
- 映画やテレビ番組の吹き替えを行わず、できるだけ多くの人々が小さい頃から日常的に英語に触れられるようにしている

- 中等および高等教育レベルで、短期および長期の留学機会を資金援助している
- 大学が教授言語として英語で指導するのを許可している
- 大学のすべての専攻およびすべての専修学校で英語を必須科目にしている
- 新人の教師全員のトレーニング計画に英語を含めている
- 英語教師に対して実践的な指導法と指導スキルの再訓練を行っている
- 英語教師が優れた指導法を共有できるよう専門サポートネットワークを設けている
- 公共職業安定所や失業対策事業で高品質の英語指導を提供している
- 政治家、実業家、セレブが英語学習を支援して、国民の手本となっている

高い英語能力が根付いている企業の多くが共通して実施している戦略は次の通りです：

- 英語を企業の公用語としている
- 国際性と可動性を大切にされた企業文化を培っている
- 外部教育機関と提携した英語トレーニングを一部補助または全額補助で従業員に提供している
- 一般的な英語トレーニングではなく、従業員の役割に合わせて特化させた英語カリキュラムで従業員を訓練している
- 従業員全員をテストし、英語スキルの弱点を特定し、まずは弱点の克服に重点を置いて取り組んでいる
- 役割ごとに英語能力の最低基準を設けており、期限内にそれらの基準が満たされているかテストしている
- 高い英会話能力のある人材を優先的に雇用している
- 様々な国籍の従業員を含む多様性のあるチームを構成している

- 企業内のすべての書類が英語で作成されている

- 英語の学習や英会話の体験談を経営陣が話すことで従業員の手本となっている

場所が違えば、必要となる戦略も異なりますが、英語能力向上が利益をもたらすことは明確です。強固な英語スキルを持つコミュニティはより競争力があって開放的であり、世界中で機会、知識、人材を活かすことができます。グローバル化の勢いは留まることなく、テクノロジーによって国際コミュニケーションがより簡易化されることは確実です。これまで以上に、英語が世界へのアクセスを広げます。

この指数について

分析方法

EF EPI 英語能力指数は版を重ねる度に、信頼できるソースとしてジャーナリストや教育者、選出議員、ビジネスリーダーなどに引用される機会が増えてきました。EF は、現在も世界中で続いている英語教育に関する議論に貢献できることを嬉しく思っています。EF EPI 第 8 版は 2017 年に EF 英語標準テストを受験した世界中の 130 万人を超える受験者からのデータに基づいています。

EF 英語標準テスト (EF SET)

EF SET は、オンラインで受けられる読解力とリスニング力を測る適応型英語テストです。当テストは標準化され、客観的にスコア付けされており、受験者の語学能力を Common European Framework of Reference (CEFR) によって定義された 6 つのレベルの一つに分類できるよう設計されています。EF SET はすべてのインターネットユーザーに無料でご利用いただけます。EF SET の研究および開発についての詳細は、www.efset.org/research/ をご参照ください。

EF EPI 2018 の各国スコアには、TOEFL iBT 2017 の各国スコア ($r=0.82$) および IELTS Academic Test 2016 の各国スコア ($r=0.71$) と強い相関関係があることがわかりました。このような相関関係から、これらの試験にはデザインや受験者のプロファイルに違いがありながらも、国の英語能力において同様の傾向があることが分かります。

受験者 EF EPI 英語能力指数の試験受験者サンプルは、回答者が言語学習の意欲がある人、および若年成人に偏り気味ではありますが、男女の人数に差はなく、幅広い年齢の成人言語学習者が含まれています。

- 女性回答者はサンプル全体の 60% を占めています。
- 成人受験者の年齢の中央値は 26 歳です。
- 全回答者の 86% が 35 歳未満、99% が 60 歳未満となっています。
- 受験者の年齢の中央値に男女の差はありません。

この指数には、受験者数が 400 人以上の受験者の都市、地域、国のみのデータが使用されていますが、受験者数が 400 人をはるかに超えている場合がほとんどでした。キューバ、カタール、モンゴル、アンゴラ、カメルーン、ラオスは以前の EF EPI に含まれていましたが、本年度は受験者数が 400 人に達しませんでした。

サンプルの偏り

この指数の中に表されている受験者は任意で受験した人々であり、その国全体のレベルを代表するわけではありません。英語を勉強したいと思っている人、あるいは自分の英語スキルを知りたいと思っている人だけがこの試験を受けているため、一般人口よりも高いまたは低いスコア結果

になっている可能性があります。しかしながら、テスト結果は個人使用のみを目的としており、受験者には不正行為によって利害に関係ないこのテストの点数を上げるというような動機は存在しません。

この試験は無料でオンライン受験ができるため、インターネット接続がある人なら誰でも参加することができます。受験者の大多数が成人労働者または学業を修了したばかりの若年成人です。インターネットにアクセスできない人は自動的に除外されてしまいますが、EF SET のサイトは完全適応型で、受験者の 30% が携帯端末で受験しています。

インターネットの使用率が低い地域の結果では、オンラインの普及状況の影響を大きく受けていると考えられます。このようなサンプリングの偏りは、低所得や教育を受けていない人々を含まないことにより、一般人口の平均スコアよりも実際のスコアを高くする傾向があります。それでもなお、インターネットを使った自由参加型の試験方法は、広範囲にわたる指数についての膨大なデータを収集するのに効果的であり、世界における英語能力レベルについて価値のある情報を提供するものだと思っております。

スコアの計算法

EF EPI スコアの計算は EF SET の 100 ポイント評価を使用して行っています。地域平均は人口によって補正されています。それぞれの国はスコアに応じて能力別グルー

に分けられています。能力別グループに分けることで、どの国が同等の英語スキルを持っているか認識でき、地域内および地域間での比較も可能になります。能力レベルは、ヨーロッパ言語共通参照枠(CEFR)とEFのコースレベルの基準で区切られています:

- 非常に高い英語能力は、CEFR レベルのB2に相当します。
- 高い、標準的、および低い英語能力は、CEFRレベルのB1に相当し、各能力グループがそれぞれ一つEF コースレベルに相当します。
- 非常に低い英語能力は、CEFR レベルのA2に相当します。

その他のデータソース

EF EPIはEUROMONITORやGALLUPなどの世論調査組織が行っている調査やOECDが行っているPISAやPIAACなどの技量調査とは全く異なった作業手順で作成されています。これらの調査では、年齢、性別、教育レベル、収入などのさまざまな要因を使って調査参加者を選択しています。このようなパネル調査は小規模になる傾向があり、多くても1か国または1地域あたり数千人の参加者となりますが、複雑なサンプリング手法を使用して調査を行うことにより、その結果は人口全体の傾向を表すと考えられています。残念ながら、このような英語スキル調査が国際レベルで実施されたことはありません。

英語能力に関するもう一つの参照データは、国家の教育制度によって作成されたものです。多くの国々がすべての高校生に対して、または大学受験者に対して標準化した全国的評価試験を使った英語スキルの評価を行っています。試験の結果は、公開されているものも非公開のものもあるかもしれませんが、教育者と政府関係者は教育改革の有効性の評価や、改善が必要な分野を特定するために試験結果を利用しています。残念なことに、このような全国的評価は国家間で比較可能なものではなく、さらに成人は実施対象となっていないため、世界の一地域における高校生の英語能力を知るための良い指標であるにもかかわらず、国家間で比較することも成人の英語能力レベルについて知ることもできません。

EF EPIは、国家試験の結果や言語世論調査データ、その他いかなるデータと競合することも、否定することも目的としていません。このようなデータセットはお互いを補完し合うものであります。1つの年齢グループ、国、地域、受験者プロフィールだけに焦点をあてた精細な情報も存在しています。EF EPIは共通の評価方法を用いて、世界中の労働年齢の成人を幅広く調査しています。これだけの規模と照準を持ったデータは他には存在しないため、いくつかの制限はあるものの、弊社は多くの政策立案者、学者、分析者とともに、英語教育について世界的な議論をする際の価値ある参照基準になると考えています。

関連するEF EPIレポート

EF EPIのリサーチシリーズには次の2種類のレポートがあります:成人の英語能力を分析した主要なレポートであり、毎年発行されるこのEF EPIレポート、世界中の中学生、高校生、および大学生の受験者を対象とした、隔年発行のEF EPI for Schools(EF EPI-s)。今年は、EF EPI第8版を公開しました。EF EPI-s第2版は 2017年に公開されています。EF EPIのすべてのレポートは、www.ef.com/epiからダウンロードすることができます。

EF EDUCATION FIRST (イー・エフ・エデュケーション・ファースト)

イー・エフ・エデュケーション・ファースト(www.ef.com)は、1965年に「opening the world through education」(教育を通して世界を切り開く)を使命として創設され、現在、50か国以上に500を超える学校とオフィスを所有する国際教育機関で、語学、学術、文化交流を中心とした教育事業に取り組んでいます。EFは、東京2020オリンピック・パラリンピックのオフィシャル言語トレーニングパートナーです。EF 英語能力指数はSignum International AGによって発行されています。

EF EPI 能力レベルについて

EF EPI能力レベルを見ることによって、同様のスキルレベルを持つ国々の特定や、地域内および地域間での比較が簡単にできるようになります。各能力レベルに記載されているタスクは、各レベルにおいて個人が実行できるタスク例を示しています。各レベルにおける上位3ヶ国が一覧に記載されています。EF EPIは英語を母国語としない国と領域のみを調査の対象としています。

EF 英語能力指数は、調査に参加した国と領域を英語能力が「非常に高い」から「非常に低い」までの5段階にグループ分けしています。能力別グループに分けることで、どの国が同等の英語能力を持っているか認識でき、また近隣諸国との比較も可能になります。次のページでは、各能力レベルにおいて個人がどのようなタスクを行うことができるかを示すタスク例の一覧をご覧ください。タスクは包括的に選択されたものではありません。

レベル間においてどのように英語スキルが向上していくかを理解するための参考資料としてお役立てください。

各国の能力レベルは、その国内にいる「平均的な」受験者のレベルを単に示唆するものではありませんのでご注意ください。EF EPIは国と領域の比較を行うことを目的としており、個々の受験者の得意分野や不得意分野については、分析の対象からは必ず必要があるためです。

能力レベル	タスク例
非常に高い英語能力 スウェーデン オランダ シンガポール	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 社会生活の場面で正しい意味合いを持たせた適切な言語を使用できる ✓ 高度な文章を簡単に読むことができる ✓ 英語のネイティブスピーカーと契約交渉ができる
高い英語能力 ポーランド フィリピン スイス	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 職場でプレゼンを行っている ✓ テレビ番組を理解できる ✓ 新聞を読む
標準的な英語能力 インド ナイジェリア 香港特別行政区	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 専門分野における会議に参加している ✓ 歌の歌詞を理解することができる ✓ 熟知した内容についてプロフェッショナルなメールを書くことができる
低い英語能力 ジョージア チリ 中国	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 観光客として英語を話す国を旅することができる ✓ 同僚とちょっとした会話ができる ✓ 同僚からの簡単なメールを理解することができる
非常に低い英語能力 イラン モロッコ チュニジア	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 簡単な自己紹介(名前、年齢、出身国)ができる ✓ 簡単な合図を理解できる ✓ 海外からの訪問者に基本的な指示をすることができる

熟練者

C2 聞いたり、読んだりしたほぼ全てのものを容易に理解することができる。いろいろな話し言葉や書き言葉から得た情報をまとめ、根拠も論点も一貫した方法で再構成できる。自然に、流暢かつ正確に自己表現ができ、非常に複雑な状況でも細かい意味の違い、区別を表現できる。

C1 いろいろな種類の高度な内容のかなり長い文を理解することができ、含意を把握できる。言葉を探しているという印象を与えずに、流暢に、また自然に自己表現ができる。社会的、学問的、職業上の目的に応じた、柔軟で、かつ効果的な言葉遣いができる。複雑な話題について明確で、しっかりとした構成の、詳細な文を作ることができる。

自立した言語使用者

B2 自分の専門分野の技術的な議論も含めて、抽象的かつ具体的な話題の複雑な文の主要な内容を理解できる。お互いに緊張しないで母語話者とやり取りができるくらい流暢かつ自然である。かなり広汎な範囲の話題について、明確で詳細な文を作ることができ、さまざまな選択肢について長所や短所を示しながら自己の視点を説明できる。

B1 仕事、学校、娯楽で普段出会うような身近な話題について、標準的な話し方であれば主要点を理解できる。その言葉が話されている地域を旅行しているときに起こりそうな、たいていの事態に対処することができる。身近で個人的にも関心のある話題について、単純な方法で結びつけられた、脈絡のある文を作ることができる。経験、出来事、夢、希望、野心を説明し、意見や計画の理由、説明を短く述べることができる。

基礎段階の言語使用者

A2 具体的な欲求を満足させるための、よく使われる日常的表現と基本的な言い回しは理解し、用いることもできる。自分や他人を紹介することができ、どこに住んでいるか、誰と知り合いか、持ち物などの個人的情報について、質問をしたり、答えたりできる。もし、相手がゆっくり、はっきりと話して、助け船を出してくれるなら簡単なやり取りをすることができる。

A1 ごく基本的な個人的情報や家族情報、買い物、近所、仕事など、直接的関係がある領域に関する、よく使われる文や表現が理解できる。簡単で日常的な範囲なら、身近で日常の事柄についての情報交換に応ずることができる。自分の背景や身の回りの状況や、直接的な必要性のある領域の事柄を簡単な言葉で説明できる。

欧州評議会より引用

EF EPI で用いられている5段階の能力レベルはCEFR基準のA2～B2レベルの範囲に含まれる。

EF EPI 各国スコア

過去からの英語
スキルの変化を
見てみましょう:

EF EPI スコア変化は、各国のEF EPI 第7版と第8版における差を示しています。2ポイントを超える変化(上昇または下降)は、英語能力の大きな移り変わりを示唆しています。EF EPI 第7版は2016年に収集された試験データを使用しており、第8版は2017年のデータを使用しています。

	EF EPI 第7版	EF EPI 第8版	スコア 変化
アフガニスタン	—	43.64	新
アルバニア	—	51.49	新
アルジェリア	42.11	44.50	+2.39
アルゼンチン	56.51	57.58	+1.07
オーストリア	62.18	63.13	0.95
アゼルバイジャン	46.97	45.85	-1.12
バングラデシュ	50.96	48.72	-2.24
ベラルーシ	—	53.53	新
ベルギー	61.58	63.52	+1.94
ボリビア	—	48.87	新
ブラジル	51.92	50.93	-0.99
ブルガリア	57.34	57.95	+0.61
カンボジア	40.86	42.86	+2.00
チリ	51.50	52.01	+0.51
中国	52.45	51.94	-0.51
コロンビア	49.97	48.90	-1.07
コスタリカ	53.13	55.01	+1.88
クロアチア	—	60.16	新
チェコ共和国	57.87	59.99	+2.12
デンマーク	69.93	67.34	-2.59
ドミニカ共和国	56.31	54.97	-1.34
エクアドル	49.42	48.52	-0.90
エジプト	46.51	48.76	+2.25
エルサルバドル	45.70	47.42	+1.72
エチオピア	—	50.79	新
フィンランド	65.83	65.86	+0.03
フランス	54.39	55.49	+1.10
ジョージア	—	52.28	新
ドイツ	62.35	63.74	+1.39
ギリシャ	57.14	58.49	+1.35
グアテマラ	49.52	50.63	+1.11
ホンジュラス	—	47.80	新
香港特別行政区	55.81	56.38	+0.57
ハンガリー	58.61	59.51	+0.90
インド	56.12	57.13	+1.01
インドネシア	52.15	51.58	-0.57
イラン	46.60	48.29	+1.69
イラク	38.12	40.82	+2.70
イタリア	54.19	55.77	+1.58
日本	52.34	51.80	-0.54
ヨルダン	47.40	47.10	-0.30
カザフスタン	45.95	45.19	-0.76
クウェート	43.14	45.64	+2.50
レバノン	—	55.79	新

	EF EPI 第7版	EF EPI 第8版	スコア 変化
リビア	38.61	39.64	+1.03
リトアニア	57.08	57.81	+0.73
ルクセンブルグ	64.57	66.33	+1.76
マカオ特別行政区	51.87	52.57	+0.70
マレーシア	61.07	59.32	-1.75
メキシコ	51.57	49.76	-1.81
モロッコ	47.91	48.10	+0.19
ミャンマー	—	44.23	新
オランダ	71.45	70.31	-1.14
ニカラグア	—	47.26	新
ナイジェリア	54.74	56.72	+1.98
ノルウェー	67.77	68.38	+0.61
オマーン	44.48	45.56	+1.08
パキスタン	49.88	51.66	+1.78
パナマ	50.68	49.98	-0.70
ペルー	50.50	49.32	-1.18
フィリピン	60.59	61.84	+1.25
ポーランド	62.07	62.45	+0.38
ポルトガル	58.76	60.02	+1.26
ルーマニア	59.13	60.31	+1.18
ロシア	52.19	52.96	+0.77
サウジアラビア	43.98	43.65	-0.33
セネガル	—	53.50	新
セルビア	59.37	60.04	+0.67
シンガポール	66.03	68.63	+2.60
スロバキア	57.63	58.11	+0.48
スロベニア	64.97*	64.84	-0.13
南アフリカ	63.37	66.52	+3.15
韓国	55.32	56.27	+0.95
スペイン	56.06	55.85	-0.21
スリランカ	47.84	49.39	+1.55
スウェーデン	70.40	70.72	+0.32
スイス	60.95	61.77	+0.82
シリア	48.49	46.37	-2.12
台湾	52.04	51.88	-0.16
タイ	49.78	48.54	-1.24
チュニジア	49.01	47.85	-1.16
トルコ	47.79	47.17	-0.62
ウクライナ	50.91	52.86	+1.95
アラブ首長国連邦	48.88	47.27	-1.61
ウルグアイ	51.73	53.41	+1.68
ウズベキスタン	—	42.53	新
ベネズエラ	45.71	46.61	+0.90
ベトナム	53.43	53.12	-0.31

*印の国は EF EPI第7版には掲載されていないため、それ以前の版のEF EPIからのスコアが掲載されています。

Central Intelligence Agency. (2018). The World Factbook. Retrieved from <https://www.cia.gov/library/publications/the-world-factbook/>

Council of Europe. (2018). Language Education Policy Profiles. Retrieved from http://www.coe.int/t/dg4/linguistic/Profils1_EN.asp

Council of Europe. (2001). Common European framework of reference for languages: Learning, teaching, assessment. Cambridge, U.K: Press Syndicate of the University of Cambridge.

The Economist. (2017). Stumped for Words: A Battle over Language is Hampering Algeria's Development. Retrieved from <https://www.economist.com/news/middle-east-and-africa/21726743-arabic-berber-french-and-hybrid-three-vie-dominance-battle-over>

Euromonitor International. (2018). Retrieved from <http://www.euromonitor.com/income-and-expenditure>

European Commission. (2018). Erasmus+. Retrieved from https://ec.europa.eu/programmes/erasmus-plus/node_en

European Commission/EACEA/Eurydice Facts and Figures. (2015). National Sheets on Education Budgets in Europe 2015. Luxembourg: Publications Office of the European Union.

Human Progress (2017). Labor productivity per hour worked. Retrieved from <https://humanprogress.org/dwworld?p=293&yf=1950&yl=2017>

International Labour Organization. (2017). Global Employment Trends for Youth 2017. Retrieved from http://www.ilo.org/wcmsp5/groups/public/-dgreports/-dcomm/-publ/documents/publication/wcms_598669.pdf

International Labour Organization. (2014). Trends in informal employment in Peru: 2004-2012. Retrieved from http://www.ilo.org/wcmsp5/groups/public/-americas/-ro-lima/documents/publication/wcms_245891.pdf

Neeley, T. (2017). *The Language of Global Success How a Common Tongue Transforms Multinational Organizations*. Princeton, NJ: Princeton University Press.

Organization for Economic Cooperation and Development. (2015). Programme for International Student Assessment. Retrieved from <http://www.oecd.org/pisa/>

Statistics South Africa. (2012). Census 2011. Retrieved from http://www.statssa.gov.za/?page_id=3839

Saudi Vision 2030. (2018). Vision 2030. Retrieved from <http://vision2030.gov.sa/en>

Technavio. (2017). ELT Market in China 2017-2021. Retrieved from https://www.researchandmarkets.com/research/sktqck/elt_market_in

TIMSS & PIRLS International Study Center, Lynch School of Education, Boston College, and International Association for the Evaluation of Educational Achievement. (2018). TIMSS & PIRLS. Retrieved from <https://timssandpirls.bc.edu/>

UNICEF. (2018). In Yemen, children's education devastated after three years of escalating conflict. Retrieved from https://www.unicef.org/media/media_102771.html

United Nations Conference on Trade and Development. (2017). World Investment Report 2017. Retrieved from http://unctad.org/en/PublicationsLibrary/wir2017_overview_en.pdf

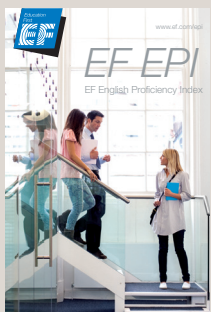
United Nations Development Programme. (2017). Human Development Report 2017: Human Development for Everyone. Retrieved from <http://report.hdr.undp.org/>

The Wharton School of the University of Pennsylvania. (2018). Why a Japanese E-commerce Giant Made its Employees Learn English. Retrieved from <http://knowledge.wharton.upenn.edu/article/do-global-firms-need-a-common-language/>

The World Bank. (2018). World Bank Open Data. Retrieved from <https://data.worldbank.org/>

World Trade Organization. (2018). Statistical Tables. Retrieved from https://www.wto.org/english/res_e/statis_e/wts2016_e/wts16_chap9_e.htm

EF EPI のバックナンバーは WWW.EF.COM/EPI からダウンロードできます。



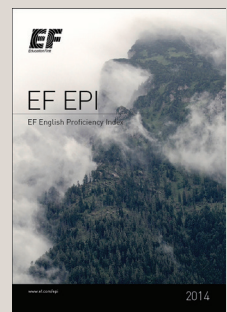
EF英語能力指数
第1版(2011年)



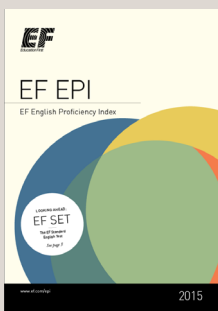
EF英語能力指数
第2版(2012年)



EF英語能力指数
第3版(2013年)



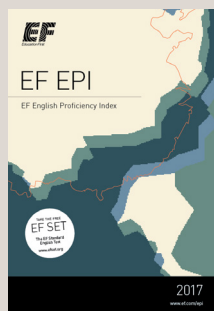
EF英語能力指数
第4版(2014年)



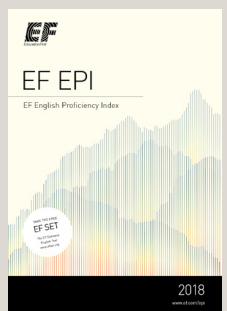
EF英語能力指数
第5版(2015年)



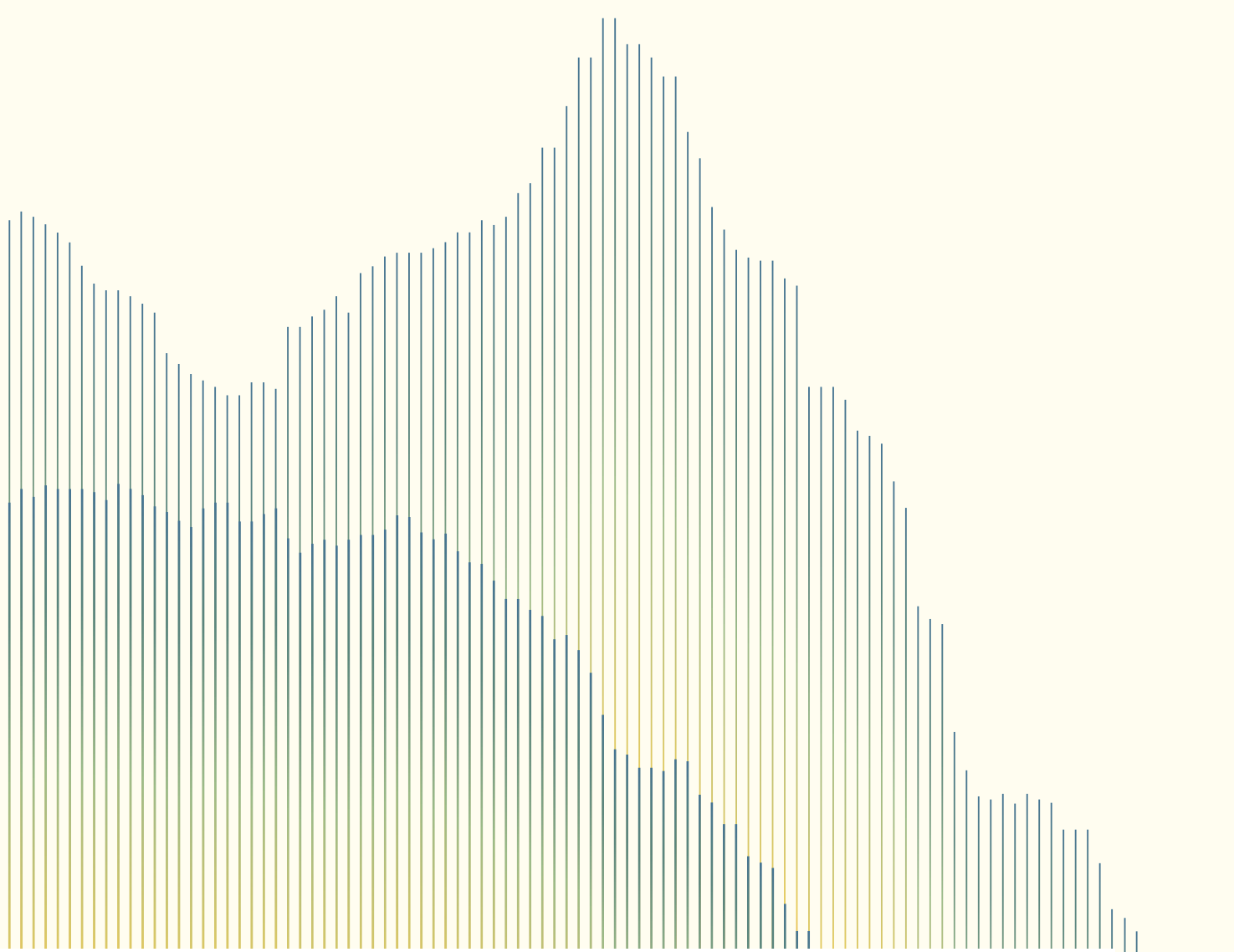
EF英語能力指数
第6版(2016年)



EF英語能力指数
第7版(2017年)



EF英語能力指数
第8版(2018年)



EF EPI

EF英語能力指数

お問い合わせ先
www.ef.com/epi